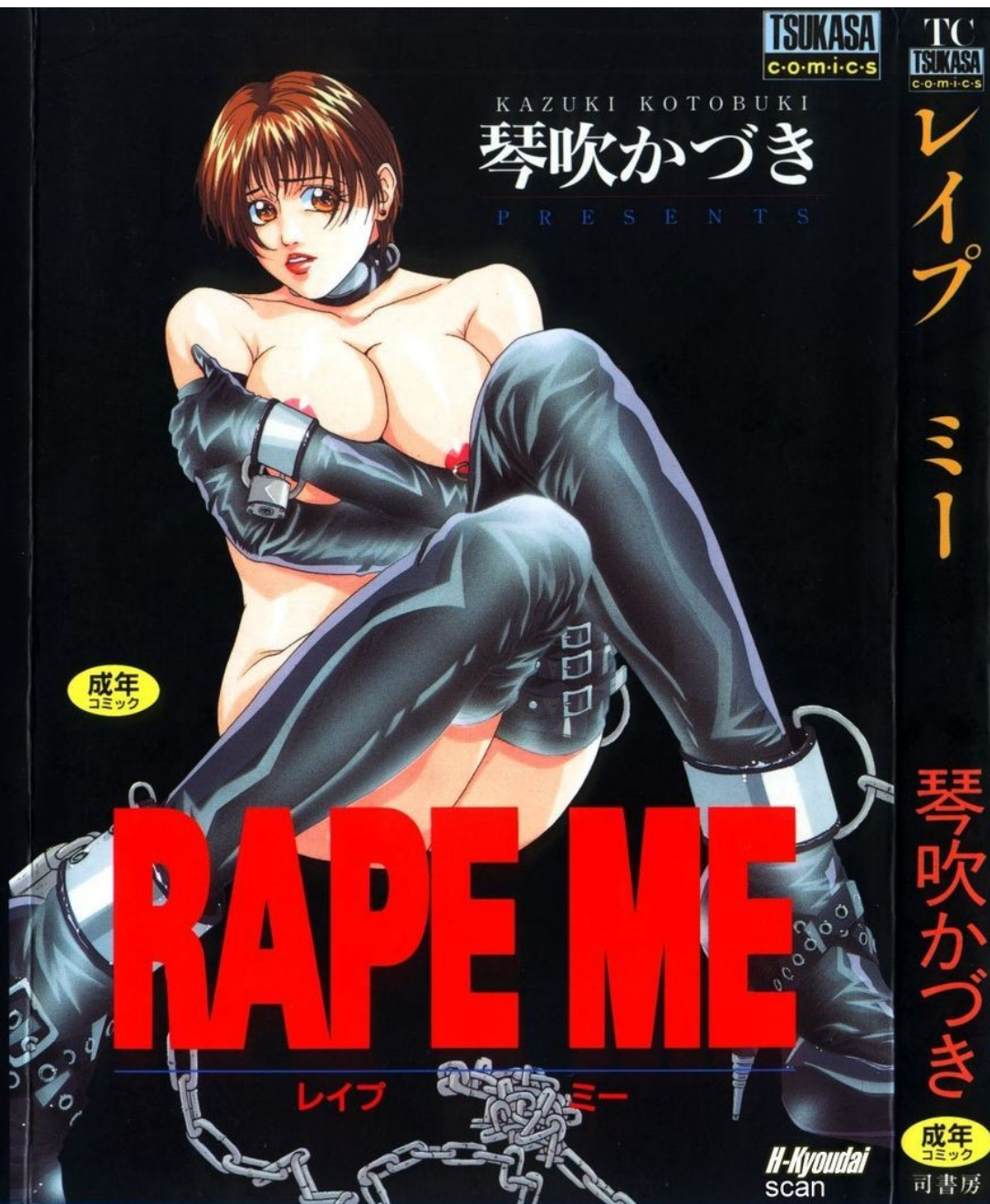


RAPE ME KAZUKI KOTOBUKI CONTENTS

序篇	
とげ やいば 『棘と刃。』	5
上篇	
ものおもふひと 『哲学者』	21
E-1	
くらがりのはさま 『闇間に。』	39
中篇	
くだ みつ 『砕けた水。』	55
E-2	
ゆー り か こ 『PLACE』	75
下篇I	
『翼ある闇』	91
E-3	
Self-Salvation 真夏の夜の夢	105
Interlude	
『Forbidden Fruit』	123
下篇II	
トキメキとキラメキと 求められる全ての応えの中に	141
終篇	
SERENADE	159



TC
TSUKASA
c.o.m-i-c-s

レイプ
ミー

琴吹かづき

成年
コミック
司書房

祝!! 単行本 2冊目 まてましたあゝ

☆いや〜1冊目が、発刊されてから、
待たせて感じ!!
ども〜アホのうめ)とえ〜す。
ハハハ 本当に待った〜。
げど〜あ〜これ! ドリフンも、去って
ほうのネ〜? けこう寂しいぞ! あゝ
と思いつも、ちやなく合点! 別に
いいかな〜ハハハ 快楽天でも
合えるネ。で〜今回は、表紙
(カバー)のシロ〜ワークと、色指定
、ガレワークなんぞ、置らせて
もら。皆様いかにでたでほうか
〜? 自分とは、地味なりに
うま出来たと思へは、いるのですか。
ま、有たは、とあれ単行本
2冊目 本当にめでた〜と
ございますぞや。
直に、ロニ、マがたも
単行本が出るみたにぞあ。
向に、おぼた、お声を
かけてさ〜あ、でぞ。
相変わらずの文章で
ありませんか! この度
バイバイでぞ。
あ、!! かし、白粉等は、
つかってませんでぞす
ハハハ……
1996.11. マホのうめ)で(たあ〜

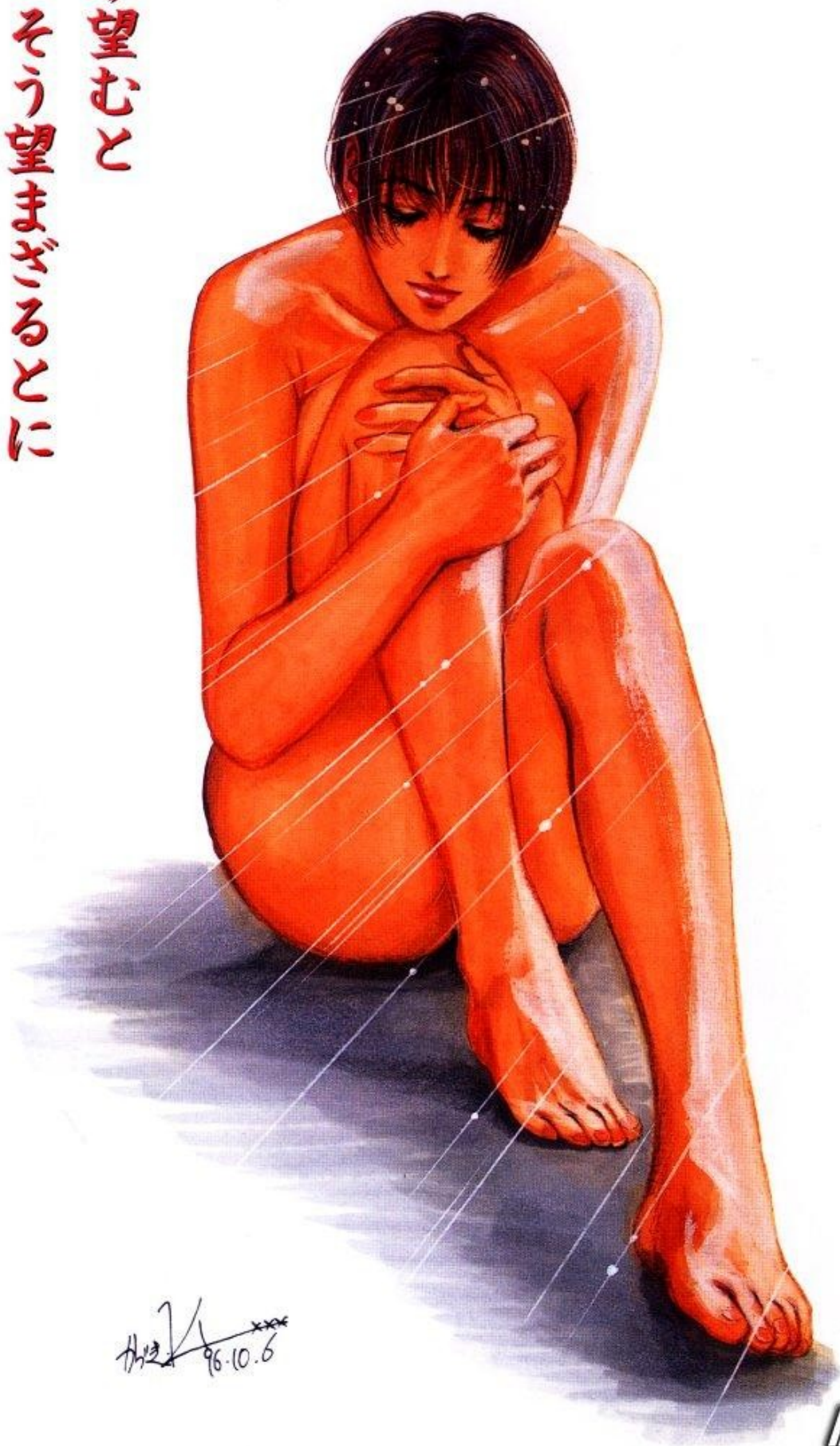
おぼたさん
ハセマア
してるんぞ
ついに、
ヒメちゃんも
出来たおね〜
ゴキ、おね
かもハハハ……

おぼた
さん
ハハハ

そう望むと

そう望まざるとに

かわらず。



愛の讃歌

凶々しき君を讃えよう。
 その琥珀の美しき瞳を愛せよう。
 飢えたる孤狼の如くその可憐な抱えを。
 ぼくは心の奥に深淵に
 決て恢復するたのしみ
 傷みと哀、その紅蓮を記憶せよう。

ぼくは愛を。
 再び君に逢ふため改に。
 永遠に比喩に見えぬ残酷な改
 には

~~君を愛す~~ 君を愛す。

死に別れを告げよう。
 ぼく改に

永久の想い、君に託そう。

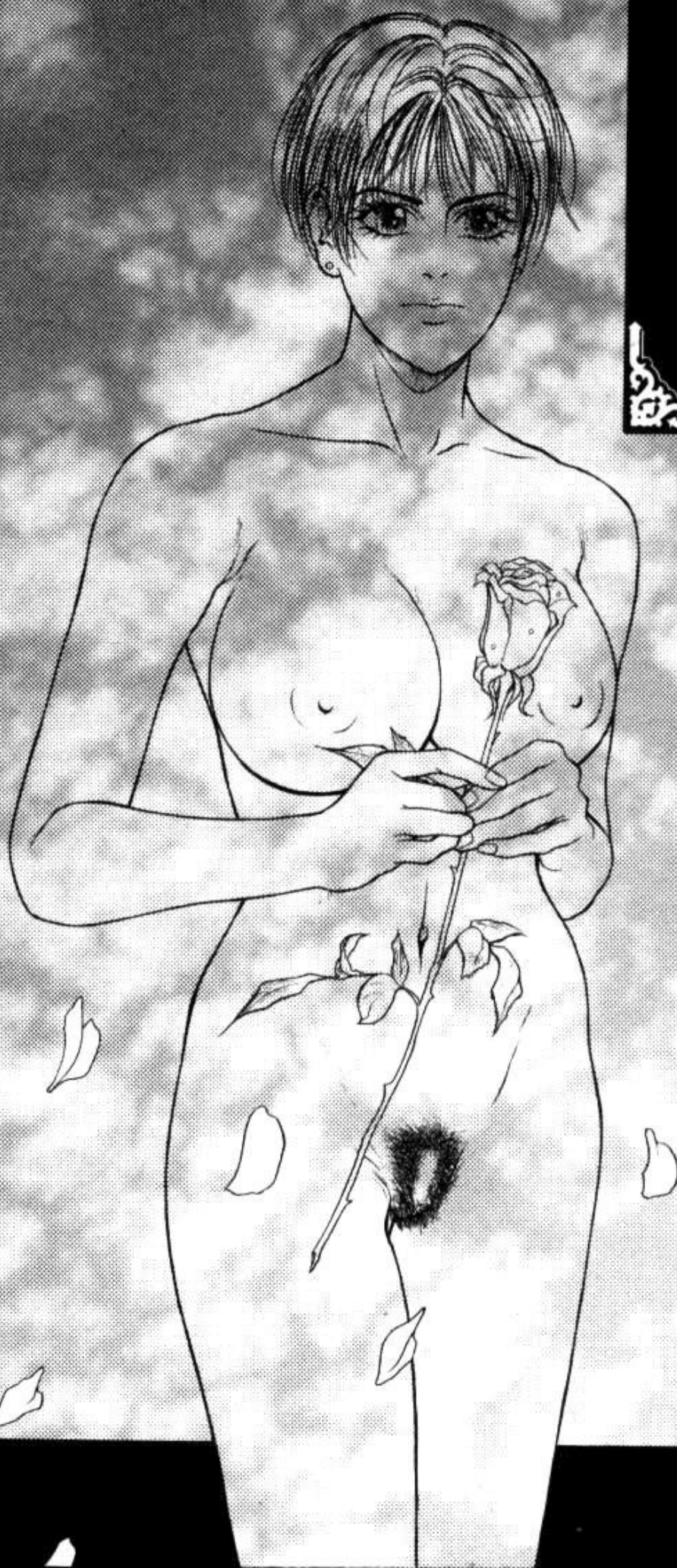
ここに二度と君に逢うた改に
 ここにこの改に。
 だが君を愛す改に。



～小口に返るあの子の詩人のトカ子～

序篇
『棘と刃』

今はもういない愛するあなたに捧げる昏い記憶を封じ込める前の最後の回想——



記録的な暑さを
予感させる94年の
初夏

出逢った場所は
平凡な公園。



あ。

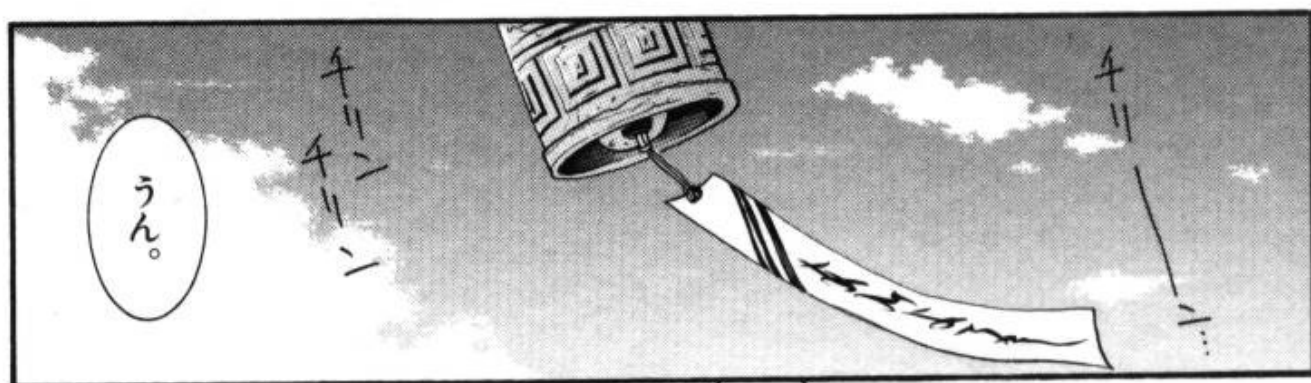


はい葉

彼女、白道路恵と
私、元橋はじめ……

秘密を持った互いの絆に
恋に墮ちるまでの時間は
僅かだった







『自分が望むとさうでないとに関わらず
相手の望む時にいしを見せる』
——約束。

不幸な巡り合わせの下
爬虫の肌を持ってしまった恵。



あっ

イタ...



ごめん

えへへ...
メグムのムネ
かわいくて。



そんなに引か
ないで

痛いわ



キレイなの
あたし。

こんなブカッコーに
大きくて…

キミとが…

邪魔、けどし
ダサイもん…



ハジメのお乳の
方がかっこいい
のに
ね♡



んーん。
かっこいいよ
うらやましい。

こんな大きな
お乳。
重ーい♡



ふーい

×ゲームでいい
あんなにうまい
なによ

ねはじめ
ミドリは
出るいの？



ふっ…

ね

私にもハジメ
愛させて。



…ん…



キュークツ
そうねえ。
うい



また大きく
なったの？



そんなコト
ある訳ない
よお！

もはや胸の
大きさが
変わって

変わんないってば
ガマンしてた
だけだもん。
ホントさー。

アッ！
胸の
大きさが
変わって



神様の悪質なイヤガラセとしか
思えない駄を持つ私。







ロケ
貪るようにその夢に
溺れ尽くしてた。

あッ
はッ

.....

ううん
いいの

ちよっ...

そんなに
しごいたら
だめえっ

メグムツ

いいよ

出して
ハジメ

出ちゃう
よオ...

出るトコ
私に見せて

はあ...

はあ...

...っ

ん

あん

メグムラ

ちゃッ

もん

いっ...

いっ



だめっ

メグムツ

やあ!

やだッ!

出ちや…ッ!!

あっ

あっ

は…

ふう…

もお…

メグムの
意地悪っ。

千りん

千りん…

千りん

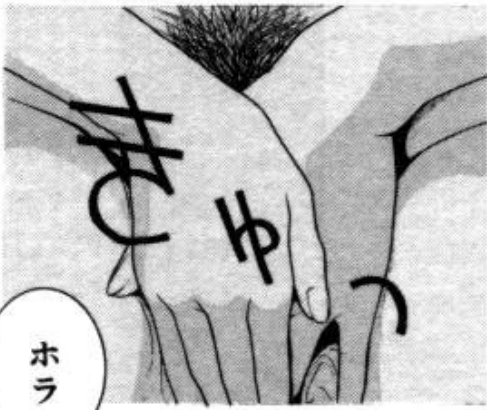
山ふ…
それは
お互い様♡

何の躊躇^{ためらい}もなく
お互いの想い^{おもひ}だけに
満たされていた—。



ね
ハジメ

ハイッ



ホラ



びっしょりだよ

メグム…



うんそうなの
今度は私の番

エヘ

うんと可愛
がってね♡



たくさん お返
ししたげる

ありがと♡

それは奇蹟のような
二つの瞬間の交錯する
至福の蜜月

誓いを交わす約束のような
狂おしい眩暈めまいの季節ひび





ね
元橋さんで
しょう？
三組の。



あ…
ありがとう。



くす
だってあなた
有名だわ。

三組にモデルみたいな
すごい美人がいるって。

あ、本人目の前には
「三組のモデル」って
書いてあるのよ。



え!?

どうして…

三組の
モデル…

それに…

ずっと前から
友達になりた
かったの。

あなたと…

そうして
二人の出会いが多分
必然的な運命だった。

「だけど、さがしてるものは、たった一つのバラの花のなかにだって、すこしの水にだって、あるんだがなあ……」
（中略）
「だけど、目では、なにも見えないよ。心でさがさないとね」

『星の王子さま』
サン・テグジュペリ
内藤 濯 訳

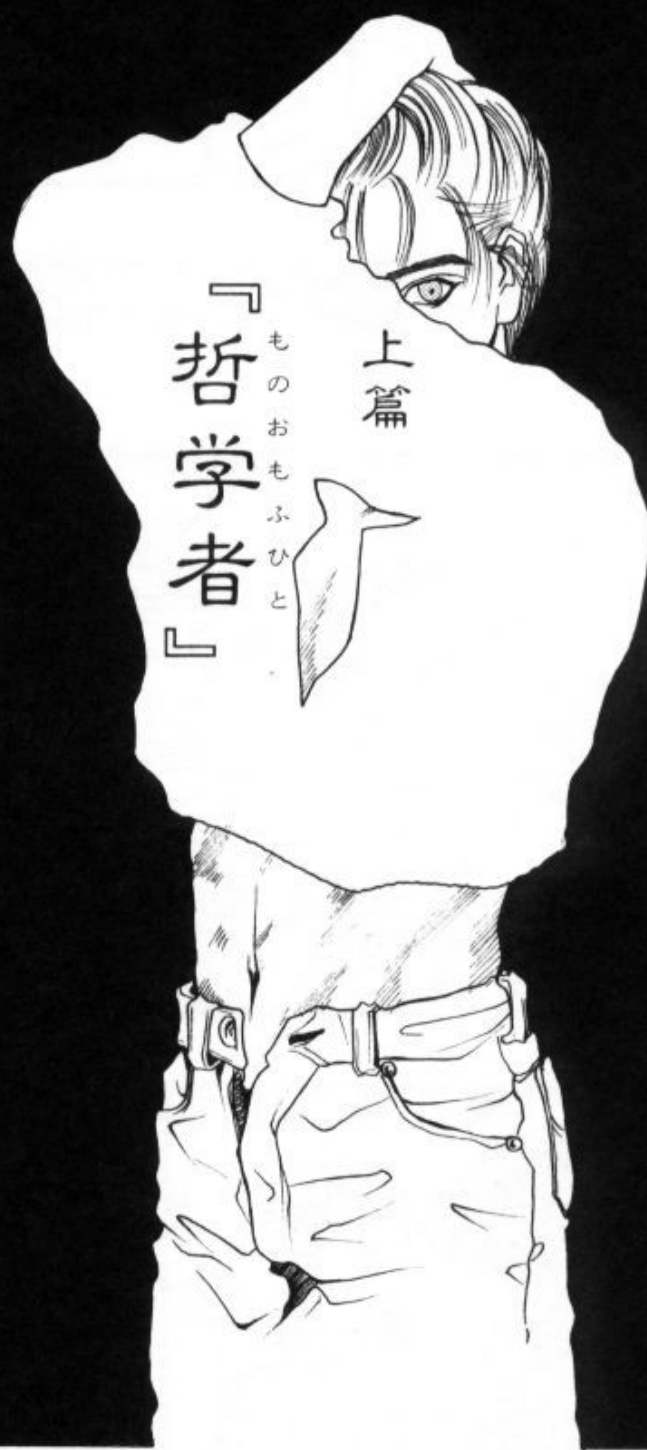
息さへも絶えだえに死の岸邊へとたどり行く！

『毒』
ボードレール
堀口大樹 訳



sweet sinful sadistic sacrifice
——RAPE ME——

罪のない人間なんていない。
意味のある“生”なんてない。



『
哲学者
』

ものおもふひと

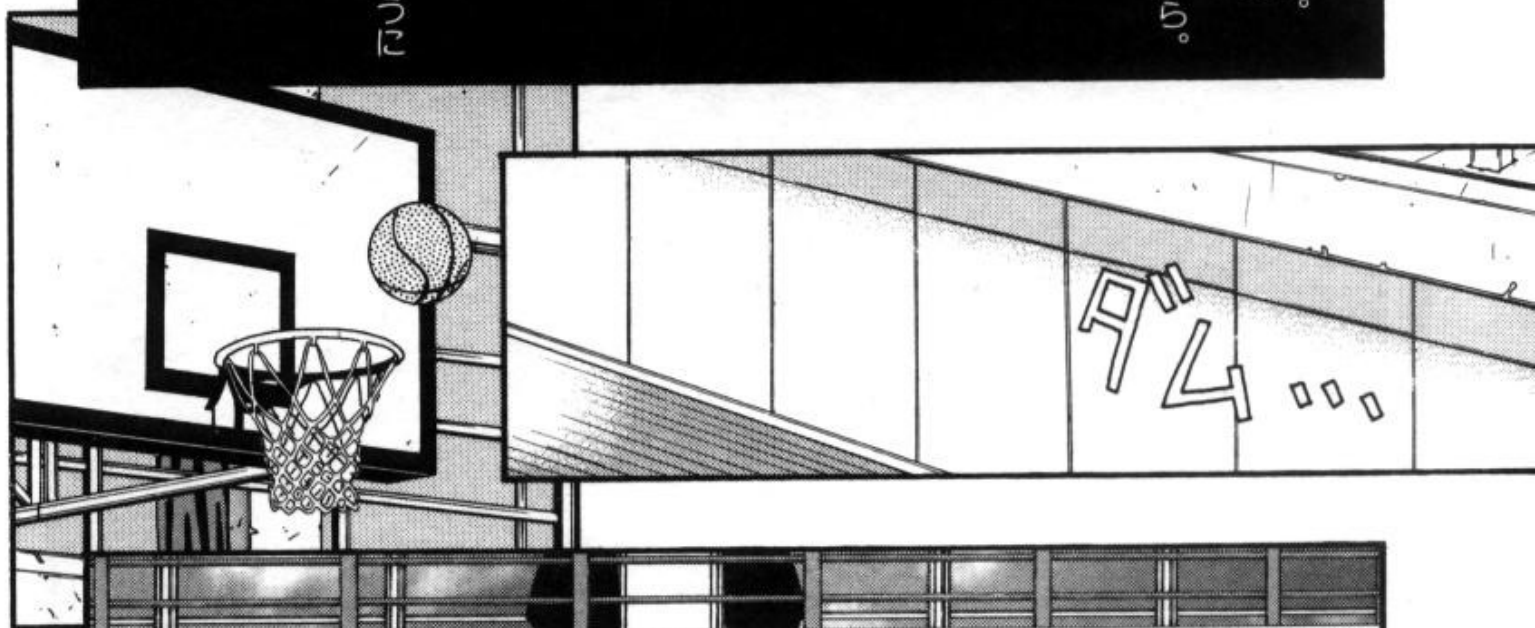
上篇



けれど唯一例外がある。
それを証明してあげるよ。

不安なのは
倅すぎるから。
倅すぎて不安
なのは、
うしろめたいから。

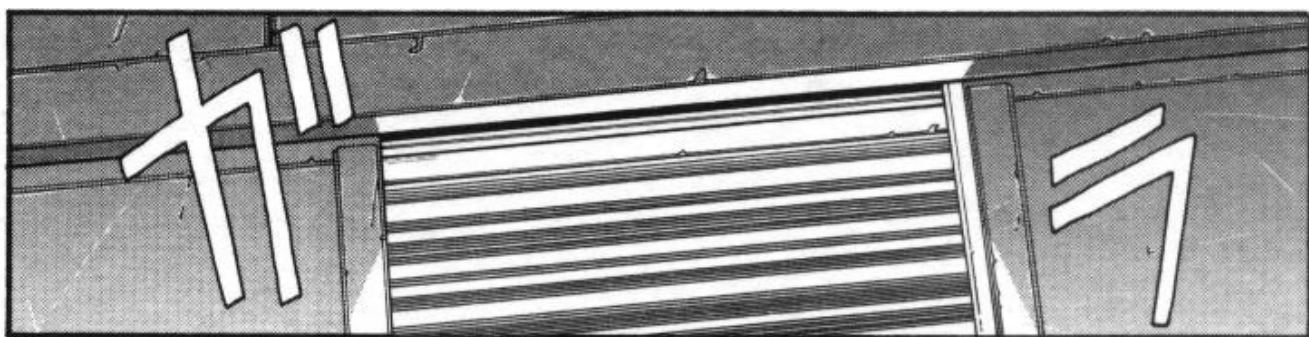
だから
隠ねていよう。
見つからないように
隠ねていよう。
じつとここに
隠ねていよう。

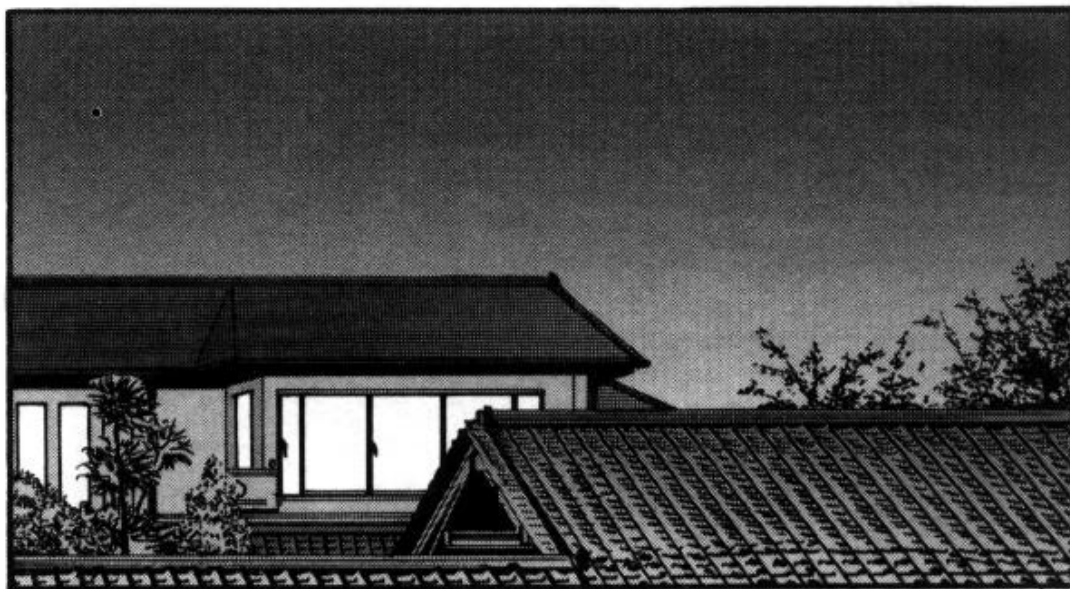


体育用具室・A











嬉しかった
んだもの。



「でも」も何もハジメちゃんを
女のコだと思ってるソレを、
裏切っているの？

だって…



好きって言われたの
初めてよ…相手が
女のコでも嬉しかったの。

ゴシ ゴシ



ふーん
そうなの。



こんなあたしでも
好きって言ってくれる
ヒトがいるなんて
嬉しかったの…



はた

H-Kyoudai
scan





でも言ってくれないじゃない…

あたしのコト
「好き」って…

あたしの望むコト
一言だって言ってくれないじゃない!!



そうだよ…
マスキくんだけ。

あたしのコト知ってるのも
女のコとして受け入れて
くれるのもマスキくん
だけだよ…でも…



あッ

あたしがどんなに
マスキくんのコトが
好きで…



うん…

あッ

はッ

マスキくんのしたい
コトなら何でも
してきたのに…



あたし
やだよ...

はッ

マスキューンの
SEXの道具
なんて...
やだよ...

う...んんッ

はッ

こんなコト
ばっかりで...

あん

ああッ



.....
そんなコト
一度だって
考えたコト
ないね。



・処・理・用・の・女・な・ん・て
ク・サ・る・程・い・る・ん・だ。

はッ

SEXの道具？
SEXは方法だよ。

ハジメちゃんから「女」を
導き出す一番効果の
ある方法さ。

あッ

はッ

本当にイミのあるコトは
まだないんだよ。

あッん

んうッ

分かん
ないイ...

分かんないよ
マスキくんッ。

ハッ...

大丈夫 ハジメ
ちゃんならスグ
分かるコトさ。

あ...んう

そんなコト
あたし分か
らないッ。

分かんなく
たって
いいもん！

ひんッ

ふッん

だってあたし
マスキくんが
好きだから
なんだものッ。



好きっ。

好きなのッ。

こんなにこんなに
マスキくんが
好きなのに

マスキくんが
好きなのオッ。

それなのにッ

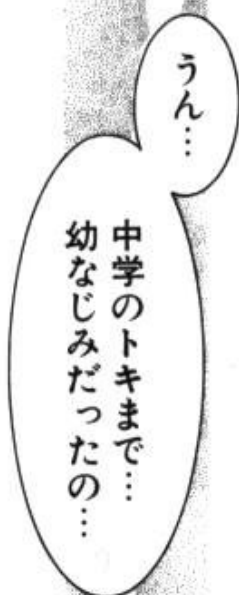
マスキくッ！ん…

ボクは違う。

そういうコト
じゃあないよ…









小さいトキから
ずっと...ずっと
好きだったヒト。

ずっと
ずっと.....



共有している快樂の
空間それ自体に
意味はないよ。
今のハジメちゃんは
その辺にいる「女」と
何の違いもないって
思い知った。
.....



もうハジメちゃんとは
会わない——。



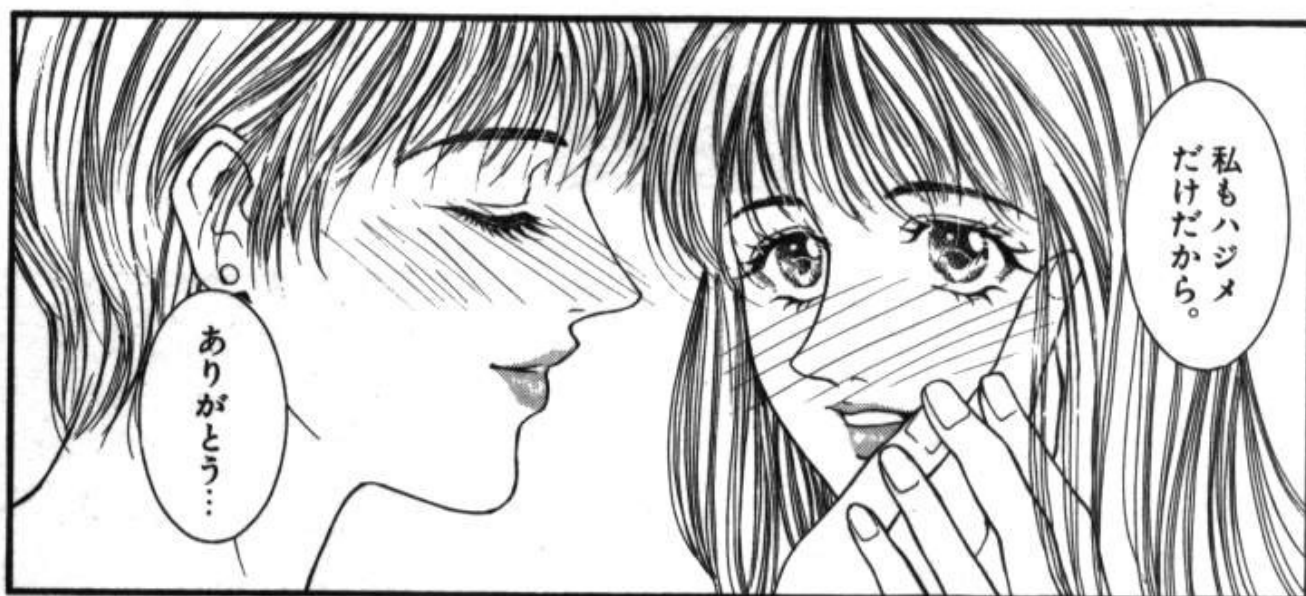
そうだな
いつか...

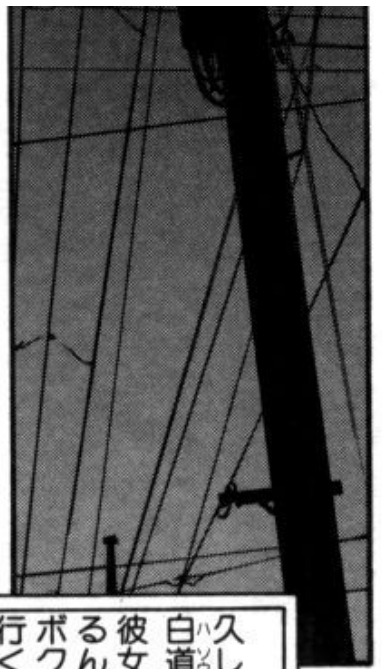
いつかまたね。
答えを求めて。
ハジメちゃんの中にしか
ソレはないと思うから。
そのトキが来ればボクの方から
会いに行くよ。



ぼくの方から

会いに行く...





あたしはメグムを
裏切る訳じゃない…

そんなコトは
ない——。



久し振りだね。
白道路^{ハシロジチカミ}恵…さんだっけ
彼女と付き合っ
てるんだ？
ボクの方から会いに
行くとつて言つたコト
憶えてるよね？

じゃあ今夜。
待つてるからね
ハジメちゃん。



今さらマスキくん
に用なんてあるハズない。
ただ——…

ただケリを付け
ときたいだけ…



あの時の想い^{キモチ}に…

エピソード

E-1

くらがりのはざま

「闇間に。」

暗闇に抱きしめられる。

甘やかな

——かぐわしき甘やかなかおりに
包まれ、あたたかな温^{ぬく}もりに
満ちた至福の——一瞬、

全てを超越する刹那の何という…



父親の再婚。
新しい母？（彼の妻）
そんなつまらない日常に
興味はなく――



世界の広さが
つまりは自己の認識力の
及ぶ範疇^{はんちゆう}でしかない以上、
ほとくのそれは決して広く
はなかったかもしれない。

時々遊びに来るハジメちゃんのコト。
祖父の遺した膨大な量の本^{テクスト}を
読み解いていくコト。
ソレだけで充分で、
それが世界の全てだった。



ただ不確実性の
カタマリでしかないモノに
心惹かれるよりはマシ。

少なくとも世の中にうんざり
する程いるうすバカに
生まれつかなかったコトは
ありがたい――
そう思っていた。



あの日その女を
知るまでは……

ん!?

カギ?
地下の書庫……?

開かずの間……か。

本の中身なんか
くり抜いてまで
こんなこと……

全くイミのない
コトをする……

カラ
ヤラ……

チーン!

親父か……

確か一度も見た
コトはないな。
ロクなモノがある
とは思えないが
一応見るか……

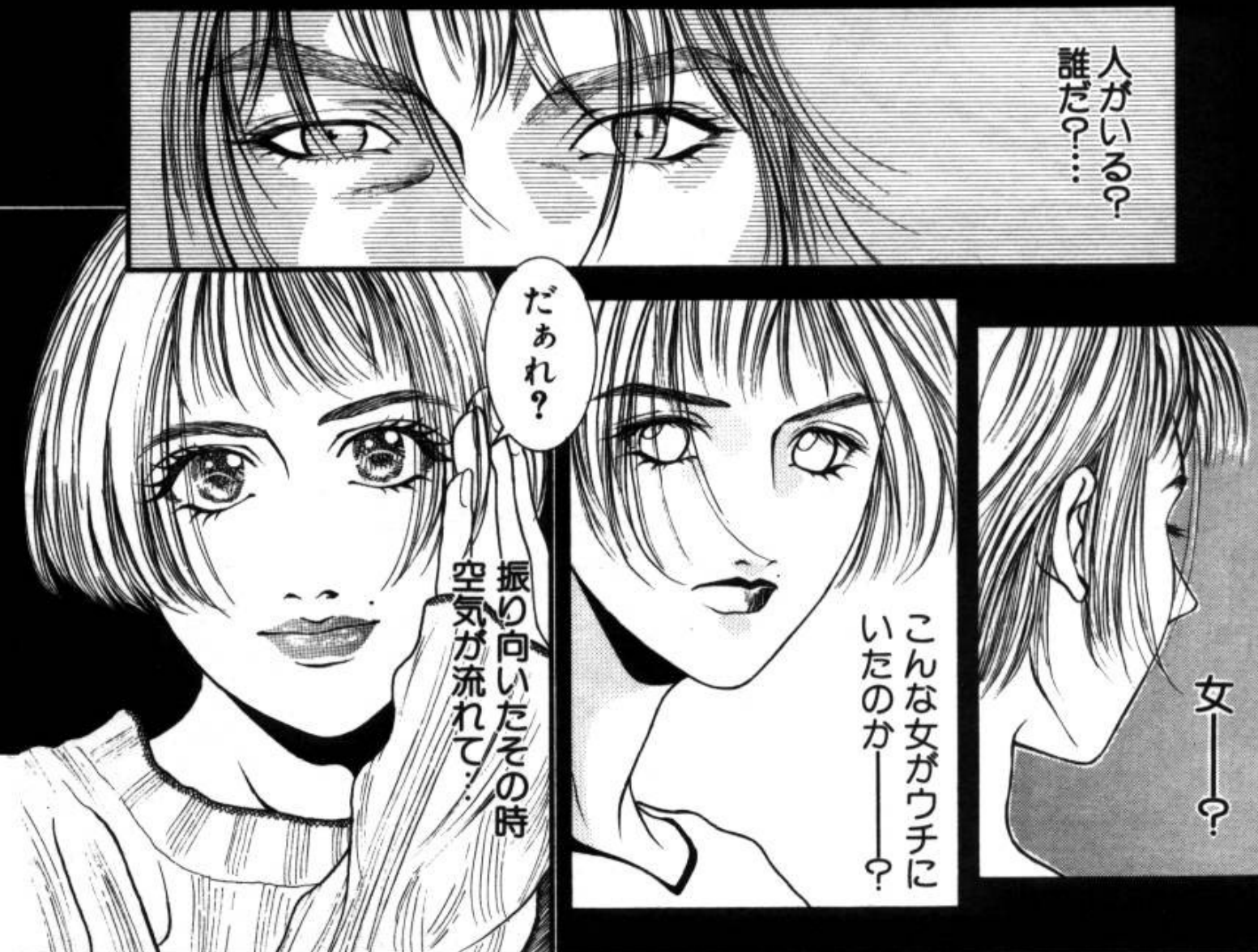
低脳。

学校が終わるまでまだ
間がある。
となるとハシメちゃんが
来るまではビマか……

たまには時間を
ツブしてみるか



人がいる？
誰だ？…



だあれ？

振り向いたその時
空気が流れて…

こんな女がウチに
いたのか—？

女—？



不思議な匂りが
漂ってきた。
その匂りの

アラ!

あなた…
ズイブン大きく
なったわ



ほくを知っている!?

あんた
誰だよ?

その匂りの



!

マリコ。

その匂りの何と
甘くかぐわしき
あたたかな切なさ…

マスキくん…
この頃ハジメと
遊んでくれない。

さみしいよ。
マスキくん…

ごめんねハジメちゃん
また今度…

どうして
マスキくん…

ハジメのコト
嫌いになっちゃった
のお？

そんなの
マスキくん…

ねえマスキくん
どうして…

溺れてる訳じゃ
ない——
ハジメちゃん。
テクスト。
ほくの世界には
何の変化もない。
なのよ……

バタム

ごめんね。

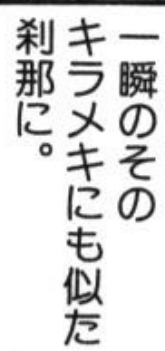
ただあの匂りが
ほくを捕まえて放さない。
頭のオカシな女の肉体に
溺れきつてしまう程
ほくは低脳じゃない
のだから——。

ただマスキの
あの匂いが…



彼方なる場所へ。







真崇見イツ

「遥かなる高みへの」



何処の誰とも知れぬ
この不確実な存在の
たてえようもない



この感覚——。



いいな！
今後あの部屋に
二度と立ち入る
なっ！！

二度とだッ！！



親父
ゴミ



ジロ...



わ...分かれ
ばいんだ。
用件はそれだけだ。

分かりましたよ
お父さん。



どうせ
大したイミは
ない...

いいさ—
頃合だ。
あの女が何
モンだろーと
どーでもいい。

テキスト。
ハジメちゃん。

そんなモノに
関わってる程
ボクはヒマじゃ
ないんだから…

きゅッ

テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメ
ちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト
/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/
テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメ
ちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト
/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/

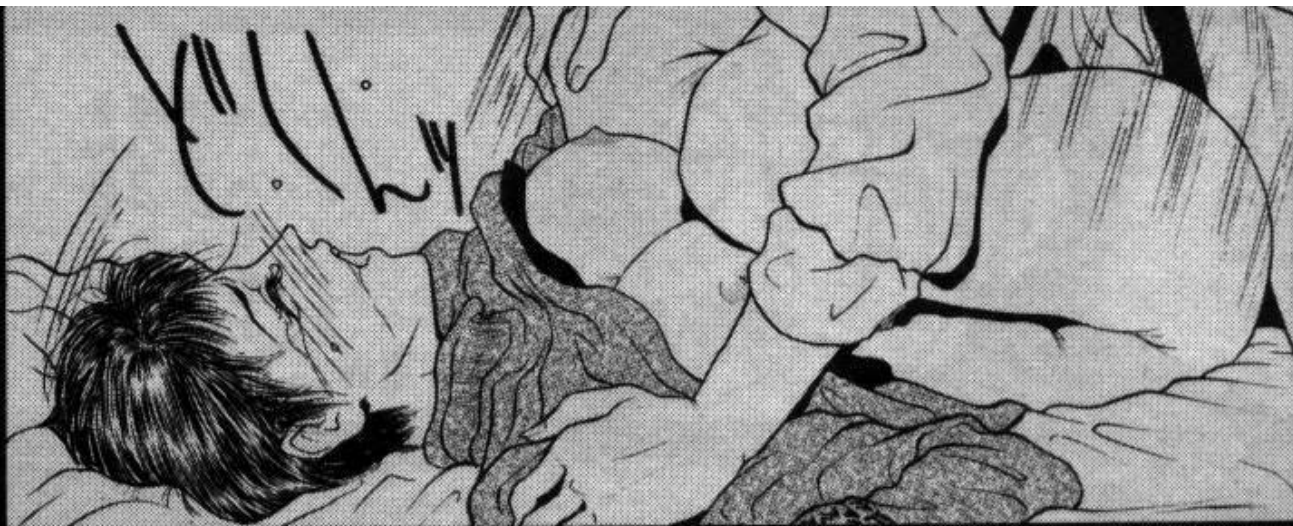


それから数カ月が経って——



何の前ブレもなく、突然に葬儀が営まれた。





卒塔婆に刻まれた戒名とその裏の小さな生前の名に、



初めて自分に母なる人がいたというコトを知った——真理子。



闇間に光の差すように。



それはかぐわしき
甘やかなあの匂りに
満ちて…

全てを超越する
刹那の幸福。

END

H-Kyoudai
scan



あたし…
何やつてるんだろ？
何言ってるんだろ？

どうかいするの
こんなバカなコト…



ホラ全部
脱いだよ
マスミくん

あたしあの時と
ちっとも変わって
なんか無いよ。

でも…
でも—

ゴメンナサイ
女のコとしちや
ったの…

マスミくんが
いなくて淋し
かったから。



マスミくんは
見つめられてるだけ。
なのに—
どうして
こんなに
濡れちゃってるん
だろう……？

だから…
ハジメを叱って
下さい……



ヤケに素直
なんだね。

もっと怒ってる
んじゃないかと
思ってたけど。

あの時のハジメ
ちゃんの全てを
ぼくは否定した
んだからね。



ハジメちゃん。



実際今さら
ハジメちゃんが来て
くれるとは思って
なかったよ。

固く心に誓ったハスの
コトがこのヒトの前には
いるだけで
粉々になってしまう...



ひょっとして

彼女のコト
かな？



ビクン

懐かしいマスミくんの声。
あんなにも辛かった日々が
幻のように甦る...
あの日からのムネの痛みに
ケジメをつける——



恵さんにボクが
何かすると思っ
たから

だから自分から
勤んで「犠牲」
になるってコト…

カンいいね
さすがハジメ
ちゃんだ。



ぼくをよく
理解してる

でも無駄
だよ。

今マスキくんを抱
かれないと思うのは
ホントの気持ち

すぐ分
かるさ

でも今マスキくん
に言われてるコトも
ウソなんかじゃない



あたしはただ淋しいの
がイヤだった…

マスキくんを好きに
なれば
メグを好きに
なれば

お願い恵には
何もしないで…

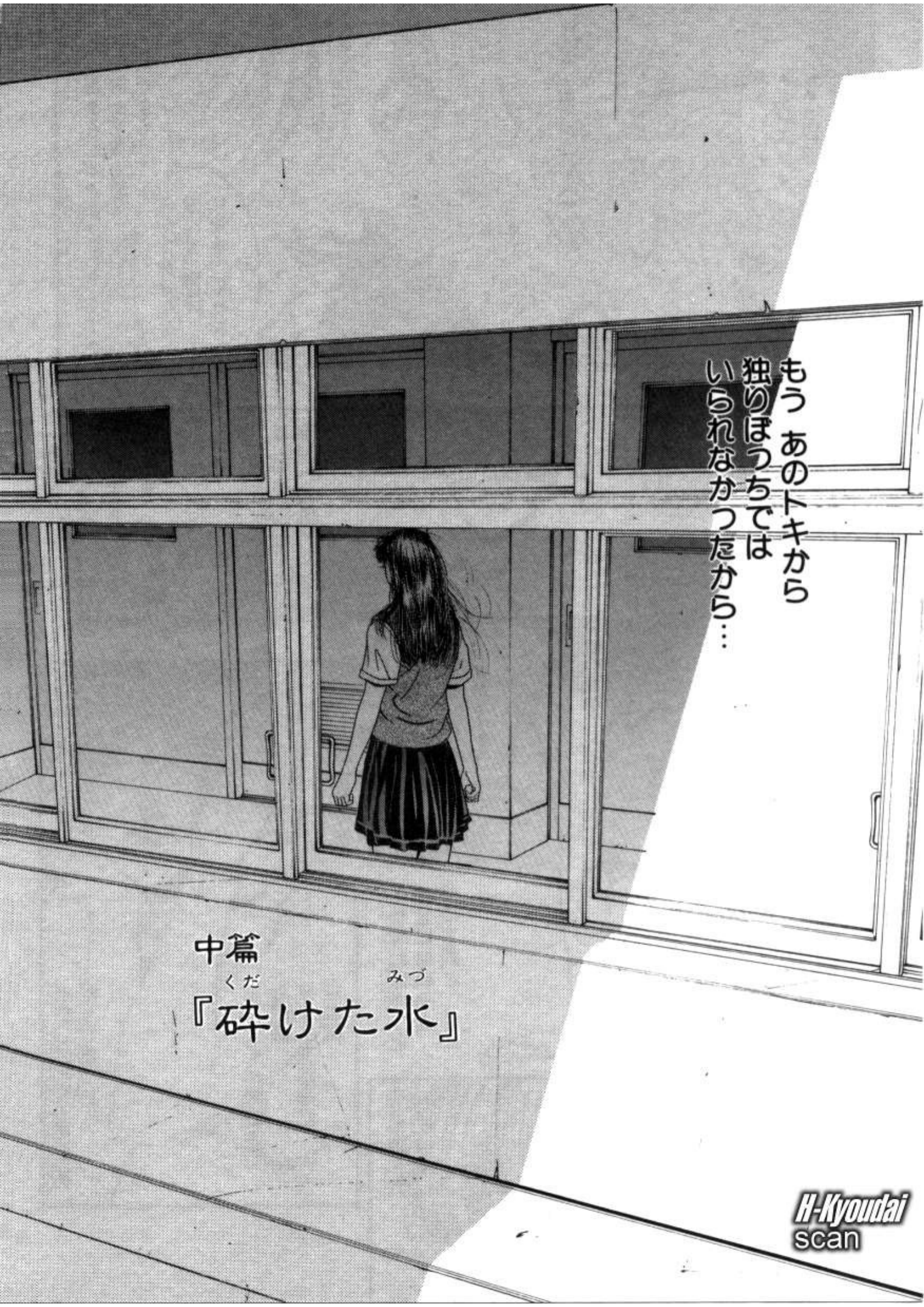
そうすればきつと
倅せになれると
思ってた…

お願いだから
マスキくん。

フライドなんてない…
どんなちつぽけな想いでも
壊れたつてかまやしな

きつと二度と
元に戻らな
くなる

でも壊され
たいはない



もうあのトキから
独りぼうちでは
いられなかつたから…

中篇

くだ

みづ

『砕けた水』



その日から一週間
ハジメは
学校に来なかった……



こんなに——
こんなにも独りであるコトが
辛いコトだったなんて
思いもしなかった。



こんなカラダで
誰にも想いを向けられなかった。
きつとこんなにも醜いカラダの私を
愛してくれる人なんていない
と、思ってたから
ずっと独りぼっちだった。

さみしいだなんてちっとも
思わなかった。
ずっとそうだったなら
きつと今でも平気だったはず。



自分でも安っぽい
感情に囚われて
るんだって気がする。

それだけ……
もう私は知って
しまったから

独りで
いるコトの

さみしさを
。

二人で
いるコトの

あたたかさを
。

ハジメがいてくれる
コトの

大切さを…

真実の名は孤独

愛は無力であると
教えてくれた

それは孤独



刹那のキラメキが
私を幸福にしてくれる



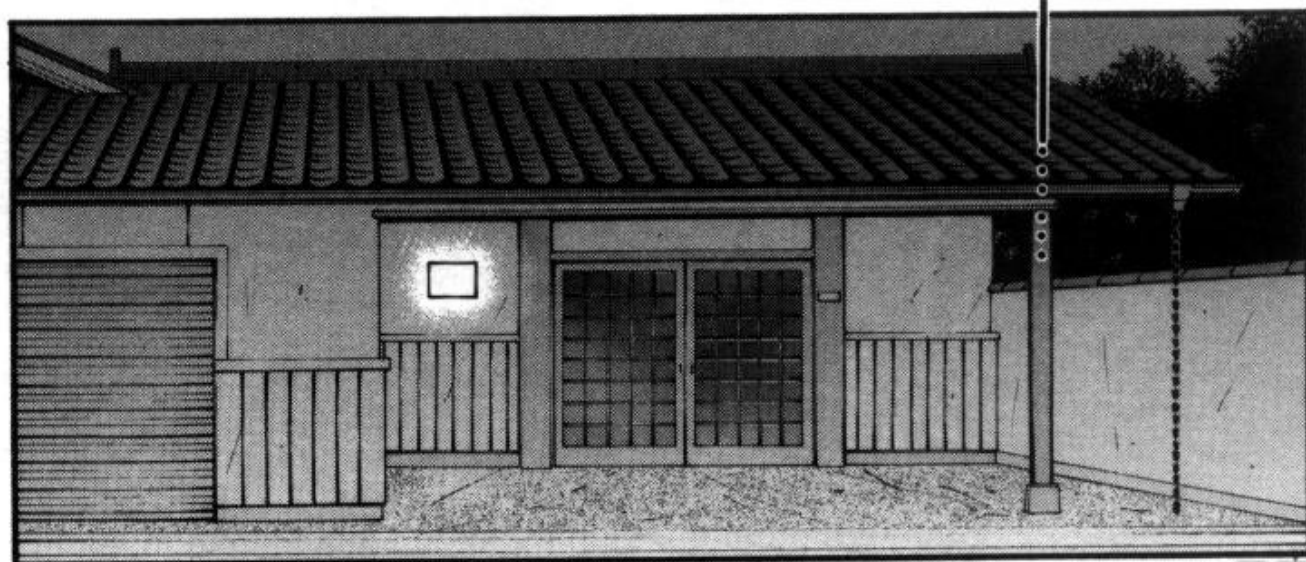
ただあなたが
いてくれるコトだけが

キラメキの中のあなたへの
トキメキがほんの一瞬
不確かな私を忘れさせて
くれる
ただあなたが私を



胸焦がす
この想いだけが

キラメキ...
胸焦がす...
この想い...



ひどいよマスミくん
お願いもう
コレ外してえ...

そんなに
イジメない
で.....

すごく
痛いのに...

郁 扇

この世の中に
「関係のない
弱者」なんて
存在しないよ。

ヒトは生まれ堕ちた
その瞬間に全世界
全てと関わりを
持つんだ。

そしてそれがどういう
意味で使われようとも
「弱者」とは存在資格を
持たないモノでしかない。

そんな...っ
無理よオ

無理じゃあう

やだ...
入らないよオ

そんなに
入らないって
ばあッ



耳元で鉦や太鼓
なんか鳴らしたって
目なんか覚めないさ。

あ——ッ

こんなの
だめッ

あ~~~~ッ

こんなの
だめよおッ!

お尻がダメん
なっちゃうよ!

ハジメのお尻
壊れちゃうッ

マスキくん
許してえッ

っあ!

凍えるような水
やケドする程の熱湯

頭がどーにか
なっちゃうよお!

はヒッ...

はッ
はッ



これがヒトを
悟らせるんだ。

痛いよ

ちぎれちや
うよお！

苦しいの…



ハンマーで
殴りつけるような
強烈で致命的な
一撃

許して
マスミくん

んッ

ハジメだめに
なっちやうよッ



はひッ
がひイ

んはあッ

ハジメだめに
なっちやうよおッ

マスミくん！！

あひッ
ヒイッ

ひはッ

道を辿るものに
許された時間は
僅かしかない。

あ——っ

なら 最も早く
効果的に理想に
近付かなくちゃね。

そういう武器つ
てのがね
テロルなんだ。

出させてッ

出させてえッ

う~~~~ッ

う~~~~ッ

あ——っ

あ——っ

おれに

おれに

恐怖と暴力の
名を持つ神聖な
儀式だよ。

さっ外して
あげる。

誰かを殺したいと
思ってたコトなんか
ない...

もう一週間だもの
自分のしなくちや
いけないコトも
分かったろうし

さすがにカワイ
ソウになってきた
トコロだから。

ホラ、ペニス
こっち向けて
脚開いて。

ハイ...
マスキくん
うれしい...よ
ありがとう

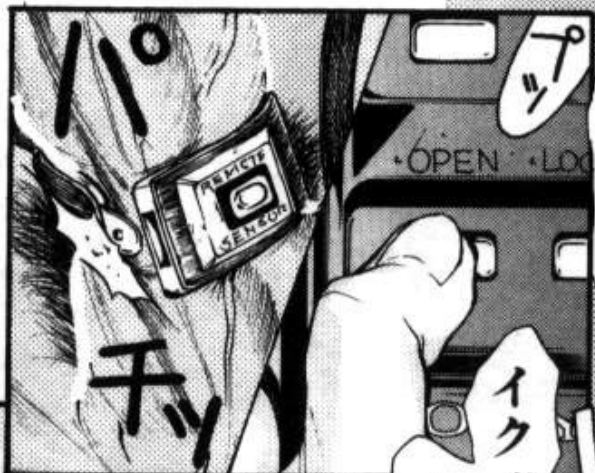
そんな憎しみを持った
コトもないしそんな必要に
さし迫られたコトもない

イクッ
イクッ!!
イクッッ

イクッ
イクッ
イクッ

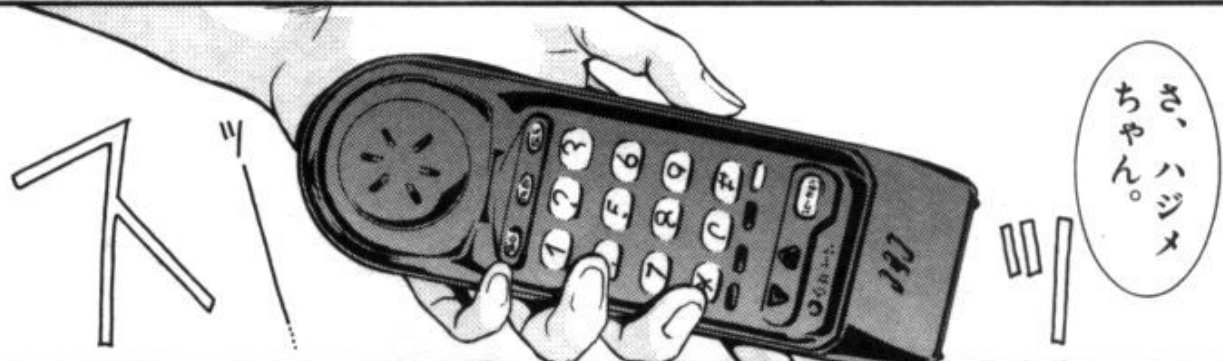
ブル
ブル

ブル
ブル











ただちょっと恐かっただけ。
お腹の中にマスキくんがいてるってコトは
ホントにちつともイヤなコトなんか
じゃなかったもの。

E-2

『PLACE』

だってうれしかったから。
あたしもいていんだなって
思えたから……
「いらないヨ」なんかじゃないって
そう思えたから——

あれから一年が
経った。

今までもその
だったけど...

あの日初めて
抱かれてからは
マスキくんが家
遊びに行くの
楽しんで住む
方がなかった。

その日が
来るまでは...

あ...

あ...

マスキくんはあたしに
色んなコトをする。

はッ...

んうん...

スゴく
来るよオ

はうん...

思い出すだけで
ドキドキするよう
なスゴくエッチなコト。

そんな奥まで

あ...

深すぎるよお...

もつと深いトコまで
入れてあげるよ
ハジメちゃん

よく見て
るんだよ。

あッ

はあッ…

は—っ

あ

ああ

あッ

時にはひどく
意地悪もされたり
したけど

あはっ…ん

んう…

ねユビやなの

お尻のユビ
抜いて…

マスミくうん
ユビやあの…

ンやん

マスミくんに言われた
コトならどんなコトだって
出来たし、

抜いてン…

ちつとも辛くなんて
なかった。

ハジメまだ
イキたくないの

まだマスミくん
にいて欲しいの

マスミくうん

あッ

んう
んッ





ぎゃふん

パンツ

あたしの生きてるコトの
全部がマスキくんのも
なんだなって思える
コトが嬉しかった。

マスキくんが
いるよオ...

あん

ハジメの中に
いるうッ...

うふん...



スゴい
スゴいイ...

だめッ

だめッ!

マスキくんがいて
くれるコト
そこからあたしの
全てが始まった。

ああ...ん

だめエッ

ヘンになるッ

ヘンになるよオ

イッちやう...

イッちやううッ

マスキくうんッ



マスキくん…

“大好き”

マスキくん

ハジメ…
イツちやうよお

あッ

ん…

イクふ

イッちやうよッ

空気の中の水分が
凝結して
氷になる温度は

イ…

あ—っッ

あたしの中の色んな想^{コト}いが
形^{カタ}になってこぼれてく境界^{カイカイ}

あ…

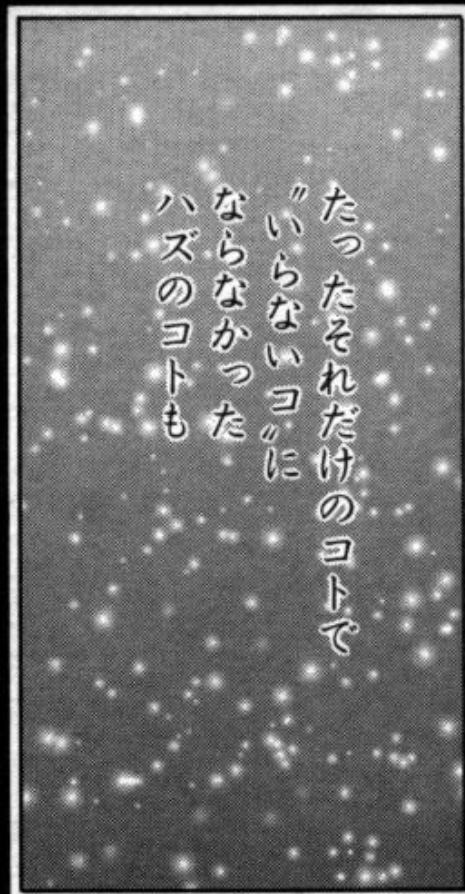
はア…

あ—っ

はッ

ふう…

は…



なのになんとか
ずつと避けられ
続けてきたコトも



お父さんもお母さんも
優クンだっけ好きなのに

“不必要な娘
だって…”



あたしがこんなコだから
こんなカラダした
ヘンなコだから

あたしに触って
くれる人が欲し
かったコトも



あたしみたいなコでも
いいんだって



誰かに言って
欲しくて

ハジメが一番
好きだよって

触ってもくれ
なかったコトも

汚ない想いも
キレイな想いも

マスミくんの
前でなら

自然に平れて
いけるもの……

あたしには
マスミくんがいる。

あたしは「いらないコ」
なんかじゃない。
マスミくんがいる。
もう淋しくなんかない。

家にも
学校にも
いる場所なんて
なくてもいい。

だって
マスミくんが
いるから。

あたしみたいなコでも
いてもいいんだって

マスミくんの側なら
そう思えるから。

想いの全では
マスミくんから
始まって――

居場所もそこそこ
与えられてるん
だもの……

ずうとそう
思ってた。

そ
づ
つ
と
ず
つ
と

信
び
て
た

と
ず
つ
と

ハジメ嬉し
いなア
エヘ

今日で最後だからね。

え!?

もうハジメちゃん
とは会わない

やだ……

やだア

ハジメちゃんがボクに
求めてるモノは全部
イミがないよ

そんなのやだよお
好きなのオッ

マスキくん——ッ！！



大丈夫
ばあちゃんば
ハジメ
好きだよ



ひどいよ
マスキくん

こんなのないよ
マスキくんのコト
好きなのにイ...

どうして...

ハジメちゃんが
欲しかったんだ
それだけだよ

あたしが
欲しいって

マスキくんが
欲しいって...



だからもう
会ってもムダ
だよ。

マスキくん...

ひゅく

やだよお
マスキくん

マスキくん

んい

マスキくん

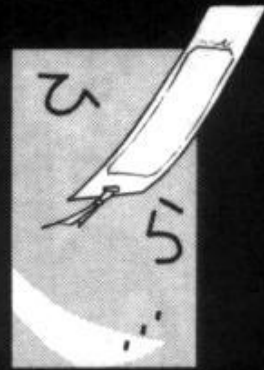
んい



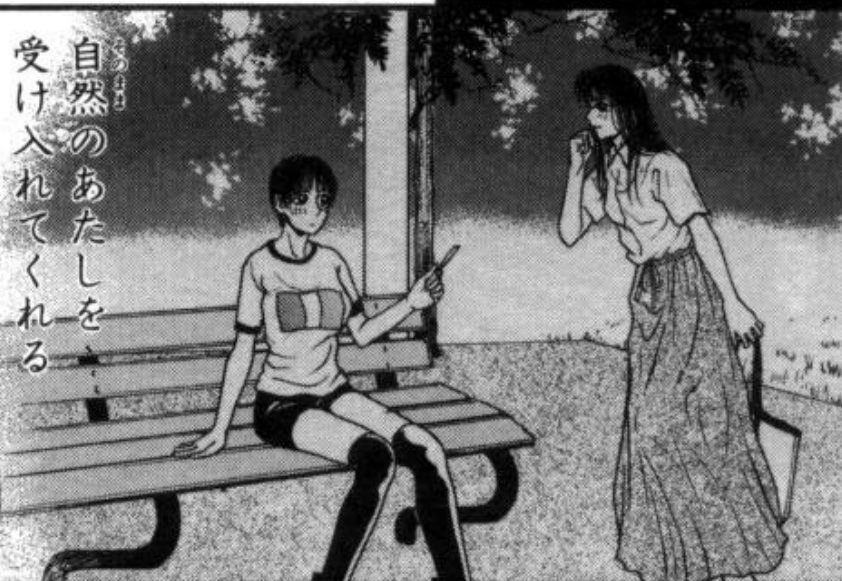


いつの頃からか
近くの公園で独りで
過ごすようになった
「知らないコ」の
あたし――

あたしが居ても
いい場所は
もう何処にも
なかったから…
けれど



自然のあたしを
受け入れてくれる



けれど探してた…
あたしがいてもいい場所を

ありがと…

三組の元橋
さんでしょ？

私ねずっと前から
あなたと友達に
なりたかったの。

そんなやすらかな
揺籃にも似た…

END





やだもう
また?

ハジメカナ

出ようと
してたのにイ
んう



ごめんねこんな
夜遅くに

あの...ね、今すぐ会いたいの...
待ってるからすぐ来て...
青葉公園のあの場所で...ね



もしもし?

はい

白道路です



イタズラ電話
とかあるぞ
アヤシ!



え!?

そんなッ...
だってそれじゃ

でもっ

お願い...
ハジメには...



『翼ある闇』

下篇 I

I talk to "God" but the sky is empty.

誰にも言わせない。
爛れた関係だなんて。

だつて
世間の恋人や夫婦の方が
絶対に汚ないモノなんだ
から



あつてはいけない隙間を
なくてはならないモノで
埋めていくような

そんな惨めな行為かも
しれないけれど

ずっと切実だし
ずっとずっと
純粹だった。

(4.8秒)



大きなお世
話です



ホント大きい
お乳だね
ハミッ、たら
巨乳さん♡



初めて私を好きになつて
くれた人が
私と同じにフツーじゃ
なかった。
だから
余計に夢中になった。
醜い鱗の小さな一枚ですら
ハジメになら平気だったし
許せる気になった。



きつとハジメもそうだった。
男の子と女の子の両方で
あるっていう
そんなコトなんか
私にとつては
自然なコトでしか
なかったから。



浅はかで幼稚な
考えだつて分かつてる



は——ッ

もダメ…
ガマン出来ないの

でもハジメは唯一人で、
替えのきかない一人で、
失えつこない私の大切な命

ハジメッ

好きッ

好きよッ

ハジメ…

入れちゃう
からね…

はッ

好き…

はッ

あッ

うん…

いいよ…

だけど

メグムう…

あたしも
好き…



あんツ ハジメッ

ひん
やん...

ちゅぽ
ぽ
ぽ

ぎゅぽ
ぽ

きやふ...ん

どうしてなんだろう
このうしろめたさは...
まるで胸に何かがつかえてる
みたいなこのカンジ...
...
...
...
...
...

はあツ

うあツん...

そんなに
締めないで...

メグムうツ

す
す
す

スゴイよオツ

それはとても
心地良い
つかえだけど

ハジメツ...

イイよっ





簡単に壊れてしまうクセに
一度壊れたら二度と元
に戻らなくなるってコトを
分かってて――

ハジメッ…

だからこそ
壊してしまいたい
のかもしれない。

何かをハッキリさせるために
私もハジメも――…

メグムう…

………!!









ハジメエツ

そんなには
ダメエツエツ



あーダメです
ダメですッ



はーッ

本当は今でもマスキくんを
好きだつてコト。
メグムのコトを真剣に
愛しているつてコト。

はーッ

マスキくんが私を求めて
いてくれたコト。
メグムがあたし以外の
ひとに心惹かれないコト。



ああッ
いやッ

いやあアッあッ

イヤッ
イク…

そう思ってたコトで
そうだと信じて
疑わなかったコトが
そうでなくなってしまうコト。

イツちゃうッ

ひあん

イツちゃうよ

あッ

だめッ

あッ

イクウツ!!...

大切に大切に
積み重ねてきたモノが
軋みながら崩れてく。

崩したのはあたし。

メグムう...

そうして

崩れていくのは

全ての.....



エピソード

E-3

Self-Salvation

～真夏の夜の夢～

sin sex
Salvation
is
so sweet
ok?

午前中のプールが終って家に戻る。

薬を飲んで
お午過ぎから夕方まで午睡。
10才の夏生理が始まってから

お腹の辺りでカサカサしてたのが
小さな鱗みたいになった。

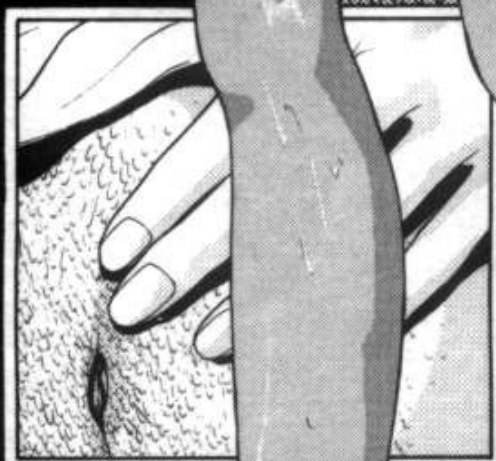
それはヘビみたいで
たまらなくイヤだったから

伯父さまの作った頭がぐるぐるなるヘンな味の薬も



ピリ ピリ...

ガマンして飲めた...





も
いいかな



こぼしちゃった
あーあ...





伯父さま…？



何…



その時自分がされていたコト それ以前にもされていたろうコトも
それが

どーゆー行為なのか知るにはさして日数もかからなかった。



それからほとんど毎日がそうだったから——。









ツン



お...じ...ち...ち

ンッ...ふ

あッ

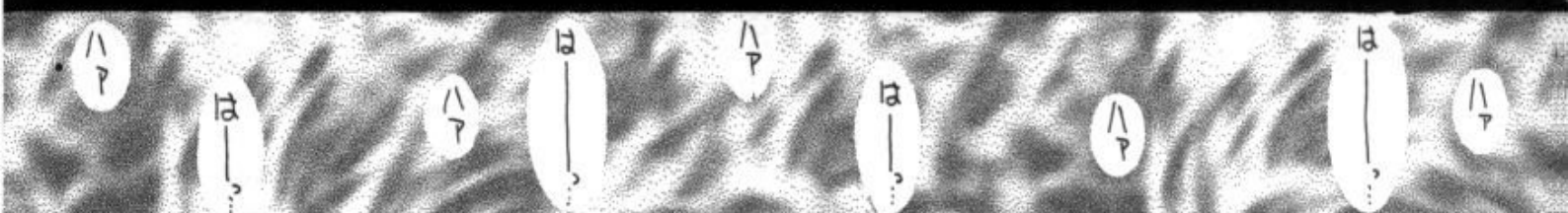
はあん

はっ

ひん

ああッ





あれから2回目の そして 最後の夏休み。

課目別の課題ノート。

学校のプール。

進学しない私には関係のない

受験用の特別課題。

中学卒業と同時に巫女になるのが

代々の慣習^{ならわし}だったし

ただ今
戻りました。

お祖母様直系の
白道路^{ハクダウジ}の女は
私しかいなかったから
それが当然だった。

伯父さま…

こんなに
早くから
私の離れに。

夏休みは
毎年
こうなるのね…

伯父さま
来てらっ
しやるの？

キリ
ン…
キリリン



ねえ
伯父さま

メグムのコト
好き？

バカなコトを
訊くな。

愛してるとはなんて
なにも思ってもいなかった。

伯父さまが私にどういうコトするのは
ただ私が欲しいからだに思ってた。

別にそれでもよかった。

こんなに醜い私が愛される訳なんて
ないって思ってたし
想いを向けるコトなんか許されっ
ないって思ってたから。

でも心で思ってるのは
彼だに思ってた。

私を思ってた女なんてモノ知らない。

ヘビミヨなんかじゃない。

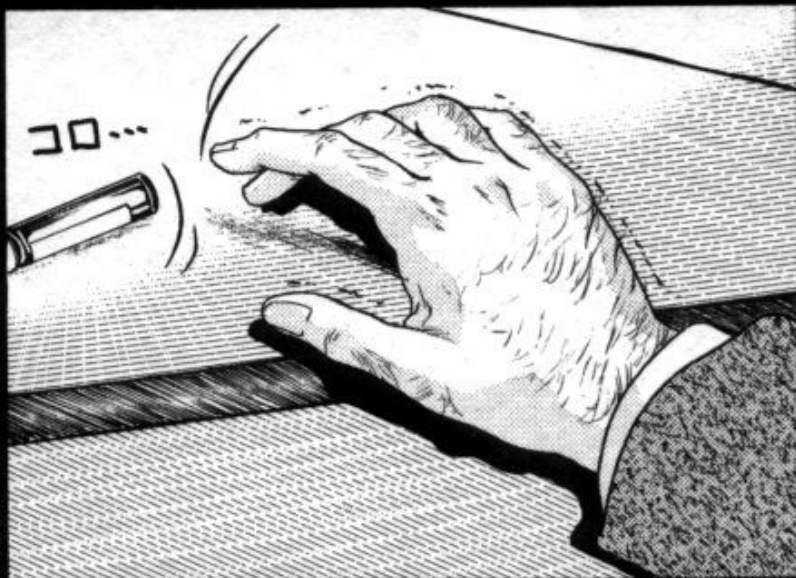
お前は私の守り神だ
白道路家の大事な
蛇巫女さまだ。

……っ

そんなモノなんか知らない。

知りたくなんなか

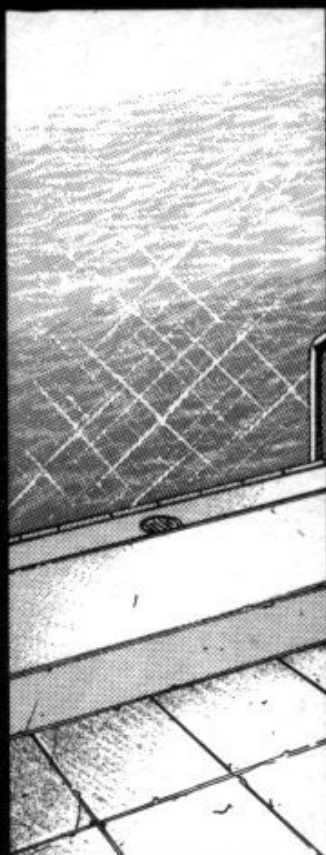
チリリン……



最後の夏休みが終わる。



あと一週間分残された数ページずつの課題ノート。



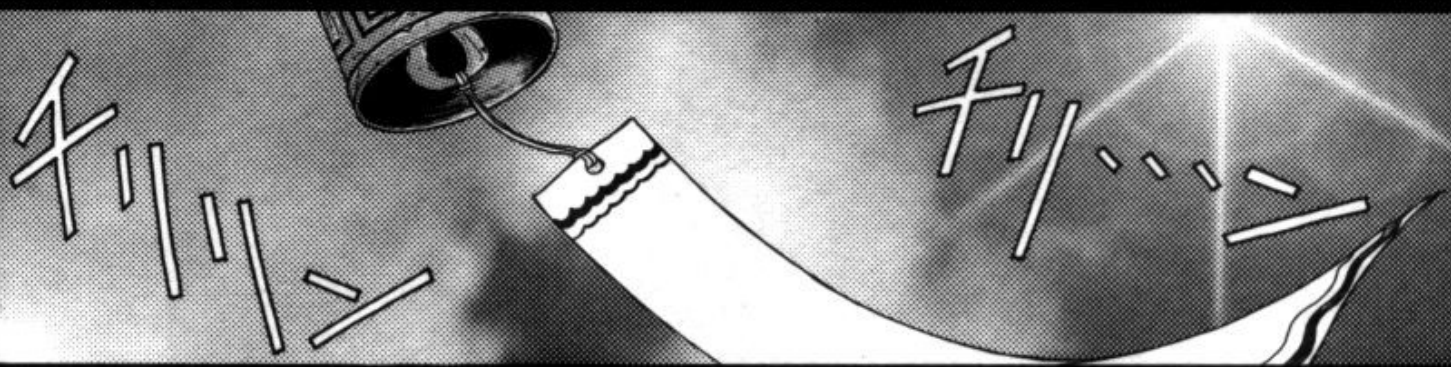
学校のプール。
お午過ぎに
学校から戻った時
伯父さまにされるコト。

H-Kyoudai
scan



たといつか知れるコトだとしても

知らないコトにしてしまいたかった...



無くなってしまえばいい

こんな鱗も 蛇みたいな肌も

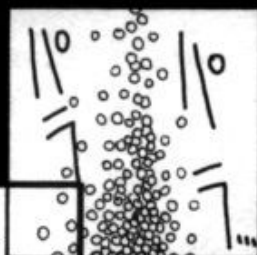
そんなモノに頼らなければならない白道路家も



夏休みが終わるまでは一週間。

受験まではまだ半年

私は特別課題をやり始める。



代々の慣習も
蛇巫女も知らない。

あの日からずっと続いてる
長い長い夏休みが

745日の長い夏休みが終る。



伯父さまと過ごした夏休みが...



伯父さまのいる最後の夏休みが。



けれど



来年もさ来年も

きっと夏休みは来る。

END

H-Kyoudai
scan



夢を見た——。



目を逸らせてはいけ
ない。
基処に昏睡はない。
ただ此処にのみある。
此の奥の底に潜るそれを見つめる。

その向こうにそれはい
る。
“人”を名に持つ獣が
いる。
目を離さずにそれを見つめ続けなくては
はいけない。
常に飼われるコト
それだけをただただソレは熱望して
いるのだから。

それぞれ違うゴールを
目指しながら
同じテープを切るその日まで

人がそれを飼う定めから逃れられ
ないからには。

冷たい目。
まるで決められたセリフをなぞるような
澁みの全くない乾いた口調。

いつもと変わらないマスミくん。
それが兆しだった……

Interlude



『Forbidden Fruit』



ヤバイよ。
メグムっ

よそうよ。

ねえってばあ
メグムう

ん！

へーキ
へーキ

わお
カチカチ♡

学校じゃしない
って言ったの
メグムだよ！

それにイ

そんなのココ
こんなにしてる
コが言うセリフ
じゃないよ♡

そんな
だって…
あッ

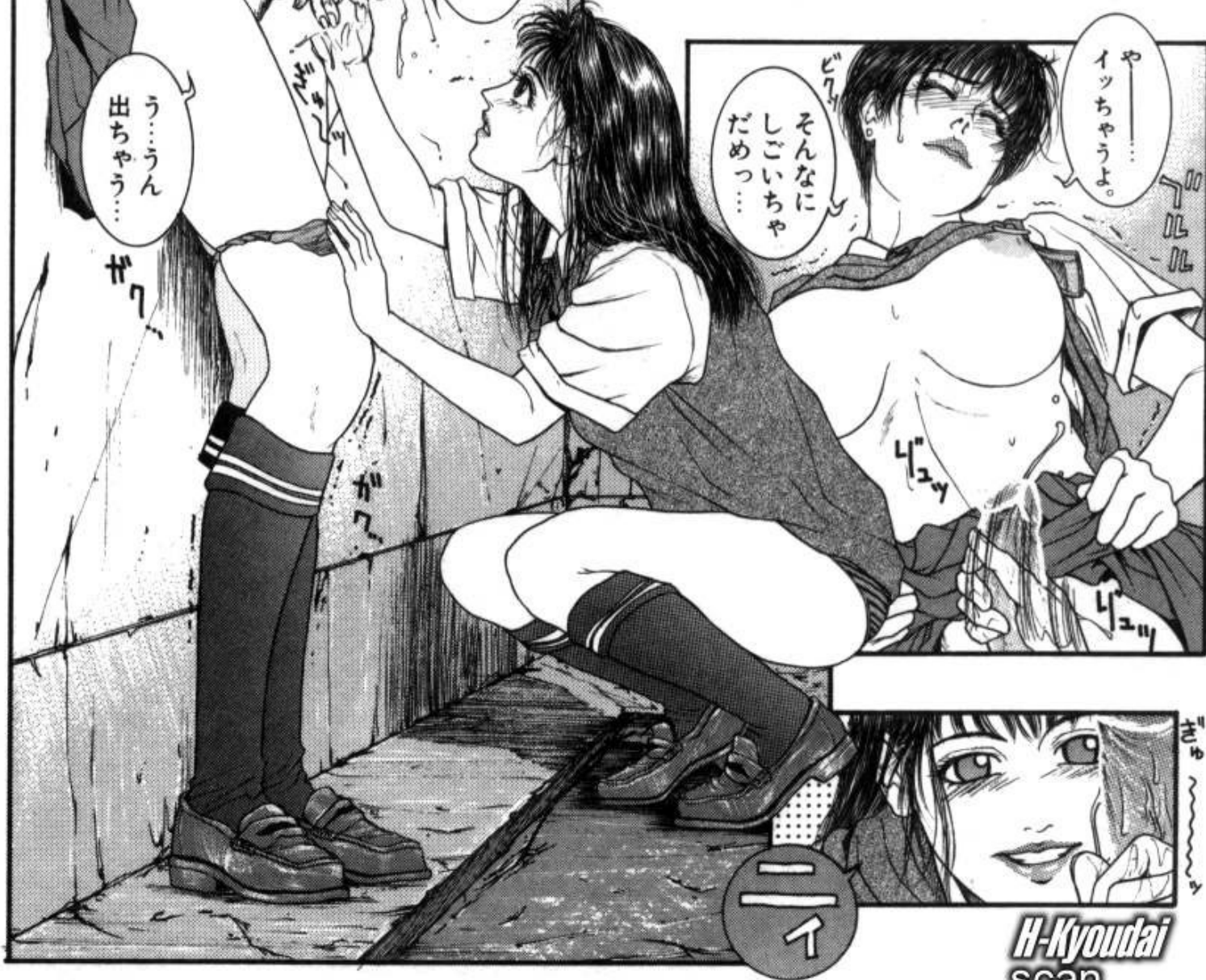
ひく

メグムがヘン
なコトする
からでしょ。

違うわよ。

んふ…

わひへわ…



















用意
出来た？

うん…

じゃあ
脱いで。

ん…



うん…



だって
違うよお。

そりやメグムになら
いっくらだって見せ
たげるけどさッ。

どうして私の前で
恥ずかしがるのよお。



もう！
ハジメはあッ。
ヤレヤレ

全然ダメ
ちっとも馴れ
ないのね。



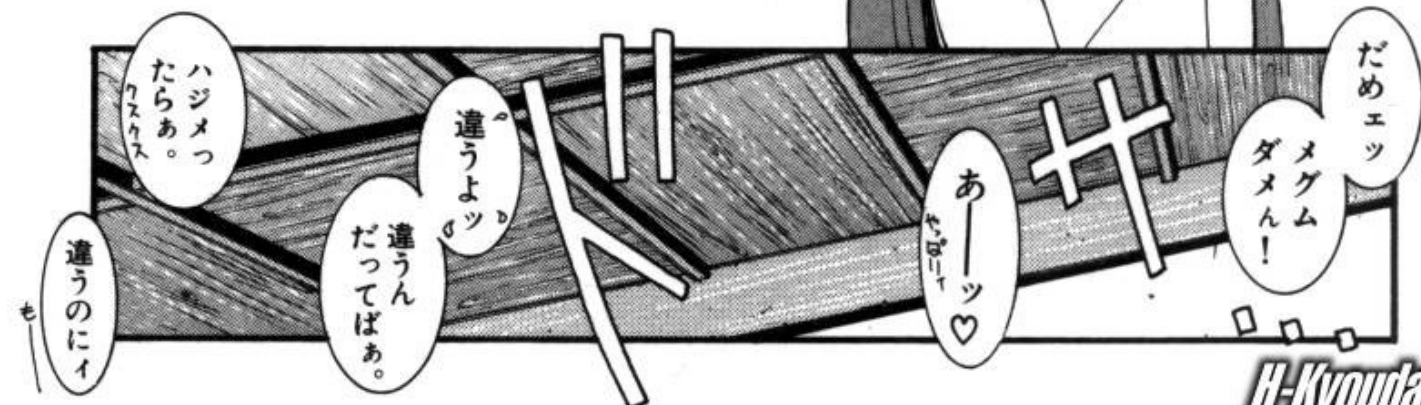
だから見え
ないポーズ
考えたんでしょ。



でも…

やっぱり
絵に描くの
なんて違うよ。

恥ずかしいよ。





きっと一生
そうよ。



あたしも
好き...

ずっと一緒
だよ。ね
メグム。

うん...
ずっと...

好きよ...



うん
ずっとね...

うん

ずっとずっと...

キッ...

キッ...

キ...



離れたり
なんかしない。

そんなコト出来つこ
ない——

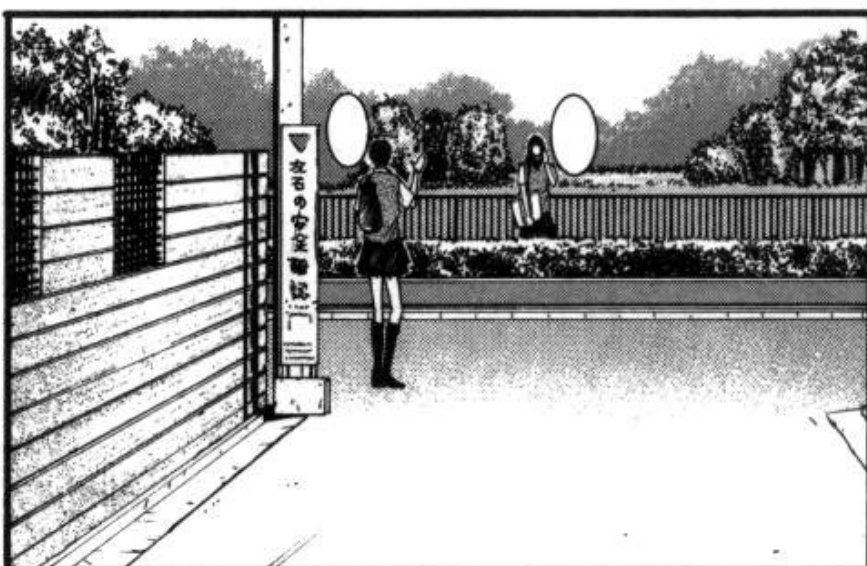
きっと...

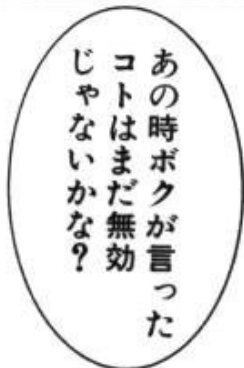
この「味」を噛みしめて
しまつたのだから...

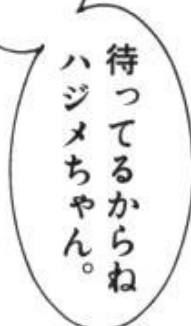


うん
約束。

約束だよ。







.....——あれが兆しだったコトに気がついた。
そして

ずるいよ
マスキくん...

こんなっ...
今頃になって
なんかあ...

そして気が付いた時は
もう
手遅れなんだと

楽園を追われた
アダムとイブも
きっと
そう思ったんだろう
——と
その時ぼんやりと
考えていた...

酷いよお...

こんなのとて...
ないよ.....



倅せを拒めない。
瞬く刹那のオルガズムも
死の最中さなかにすら分かち難くがた続く苦痛も
それが「倅せというモノ」なら
拒めつこない。

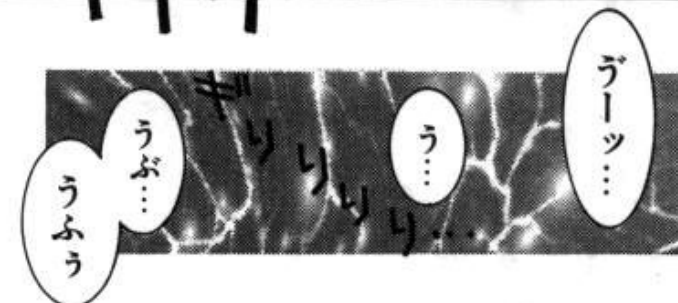
望むコトなく
選ぶコトすらなく
唯ここに共にあるだけのモノだから。
至福の歓喜の中享受する以外の術まへを
始めから与えられていなかったから……





下篇II

ドキメキとキラメキと
求められる全ての応えの中で





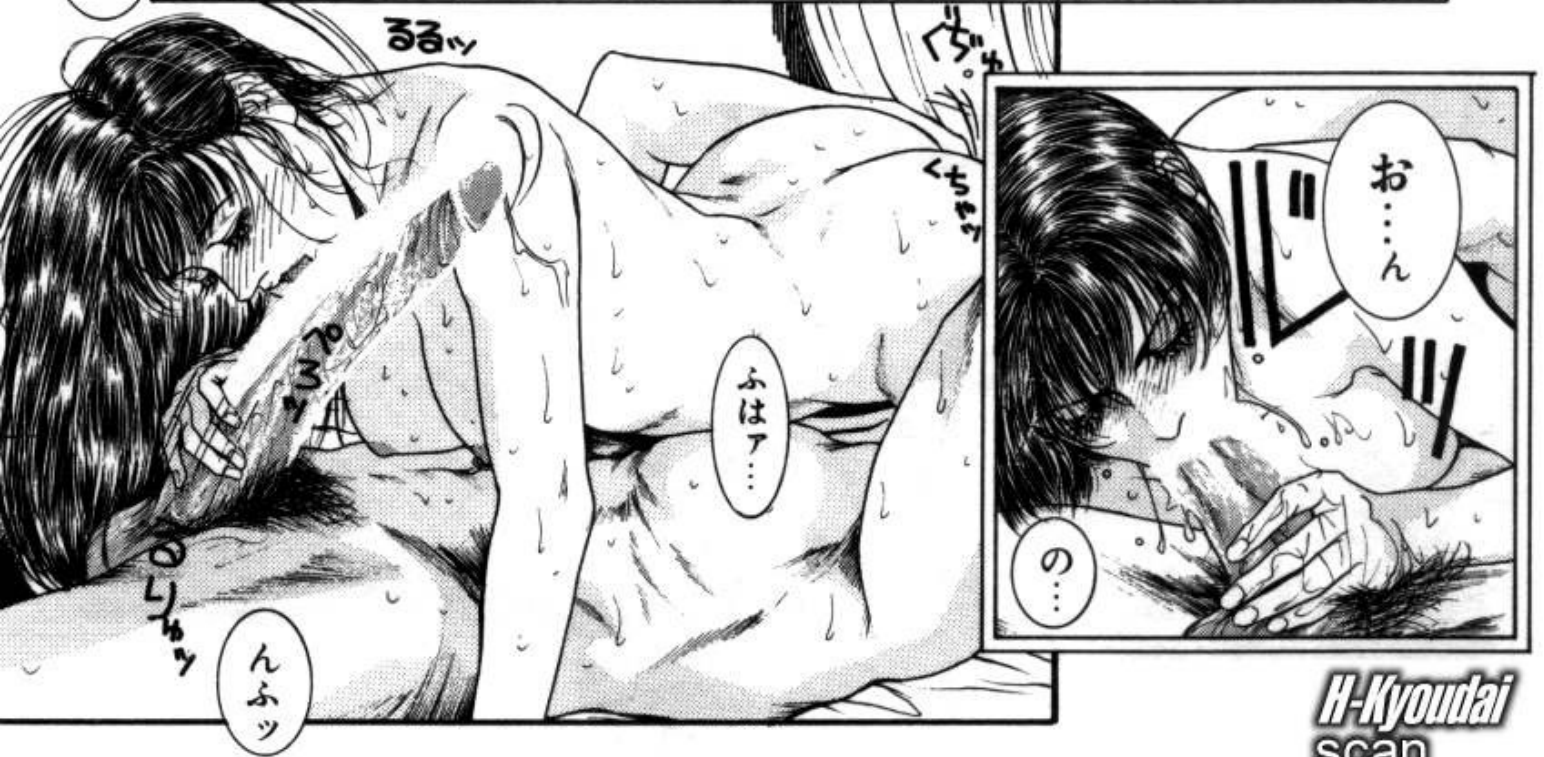
マスキさんと
一緒だった時間





かつてのあたしと
みじめなくらい重なる…













お願い！
ハジメには
何もしないで…
その代わり



はひイ

イ…イク

あ…はッ

イツちやううッ

イクウ



ハジメちゃんが
出た直後に
リダイヤルしてね。

メグムさんは
ハジメちゃんと
同じコトを言っ
たよ…



ケッ

ドねッ

あ~~~~ッ

うあッ

あ~~~~ッ

あああッ

ひいッ



ハア…

ハ…

ハ…
ぬ

だけど今は
ソレはどうでも
よくなっちゃってる

ハア…

ハハッ

あ…
あ…
あ…

ぽ

ハジメちゃんと
同じにね

カチャカチャ

パチン...
ミュル...

そんなこと
ない...

そんなコト
ないよお

そんなフリ
して...

とっくに分
かってるん
でしょ?

コレを望んだのが
メグムさんだって
コトも

あ..
あッ

こういうコトに
なるっていう
コトも

だってメグムさんを
一番良く分かって
るのはハジメちゃん
なんだし

ボクを一番に
知ってるのも
ハジメちゃん
なんだから

本当はぼくも
ハジメちゃんが
好きだから

ぼくは分か
ってた

メグムさんが
そうな様に

ハア...

そしてそういう
ハジメちゃんを
メグムさんは
知ってたろうし

マ・スミ...くん...

!!



小さいトキから
そうだった...

ハジメちゃんが
男のコだと
思ってたトキから



今でも

これからも
ずっと...



女のコに
なつたトキも



そうぼくにとって
意味あるコトの
全て...



たつたひとつの真実は
いつのまにかハジメ
ちゃんになってた。

死ヌホド

好キダカラ

死ぬほど
ハジメちゃんが
好きだから。





答えは最初から
ハジメちゃんの
中にしかなかった。

会わない日々
でさえ想いは
キミにあった。

焦がれれば
焦がれる程
絶望を味わい
続ける



くっ…

もっいいい…
もっいいい…

もっ何も
言わないで
マスキくん…!!

そんな地獄の
ような苦痛だけが
ぼくの唯一の糧だった。



んっ…

そうして
それが…

全てだった。

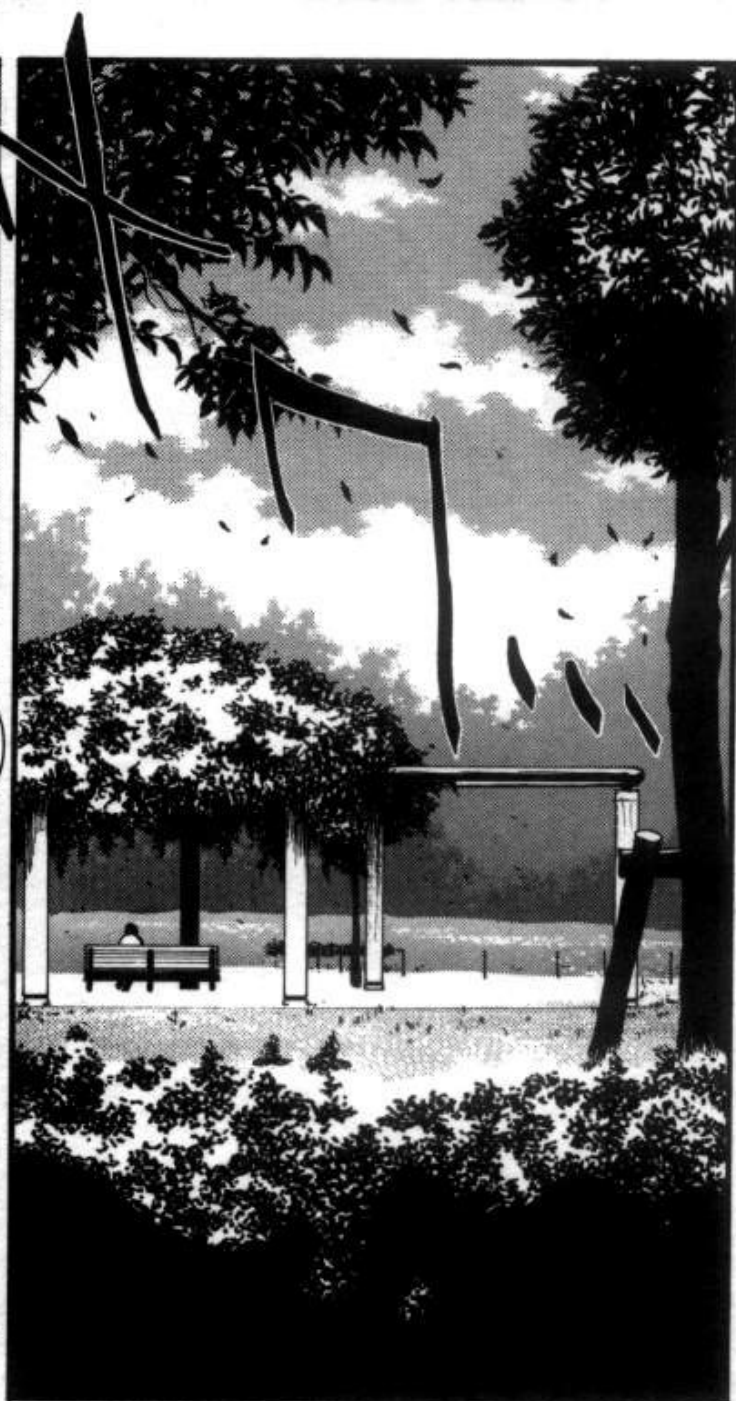


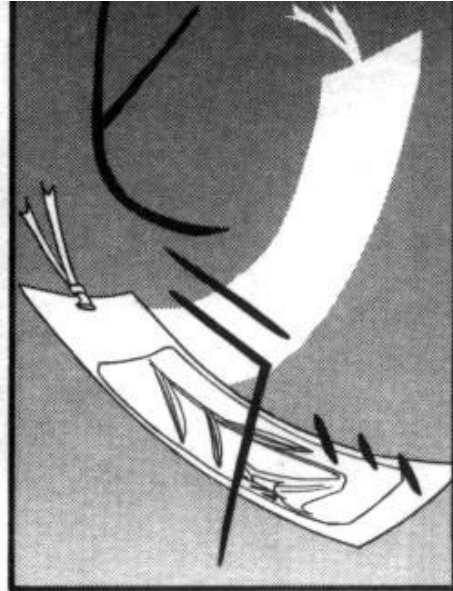
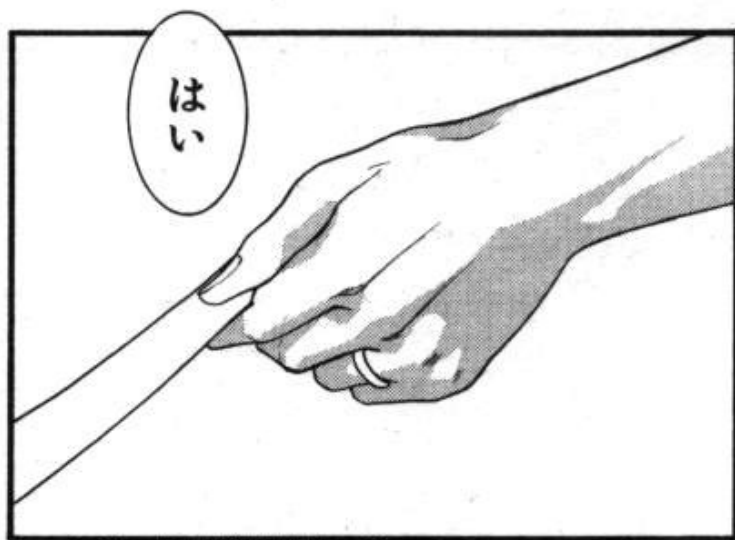


これはいつまでも消えない傷
忘れるコトの出来ない辛い想い出
今持つている記憶の全てを失くしても
これだけは失ない得ない
終わるコトのない涙で綴られた
永遠の二重螺旋

そして今はもういない愛するあなたに捧げる昏い記憶を封じ込める前の最後の回想……







最後の回想

。



H-Kyoudai
scan



終篇
SERENADE





「認めたくないものを
認めてしまった」
というコトを
認めたくなかった。



気が付かないフリ
をして

目を背けて幸福
に浸ってた。



だから本当のコトから逃げた。

うしろめたかった……



そっとう自分が
すこくやましい
コトしてるって
何となく思っ
てた。



なぜなら
なぜなら浸ってる幸福それ
自体ですら

本当はあり得ないコトだって
分かってたから……



だからいつか壊れるんじゃないかっていつも怯えてたし

壊したいのかもしれないって思ったコトもあった。



マスミくんは正しい。
それが正しいってコトもあたしは分かってた。

ただ
認めたくなんかは
なかった...



結局最初っからあたしには
あたし独りでしかないっていう

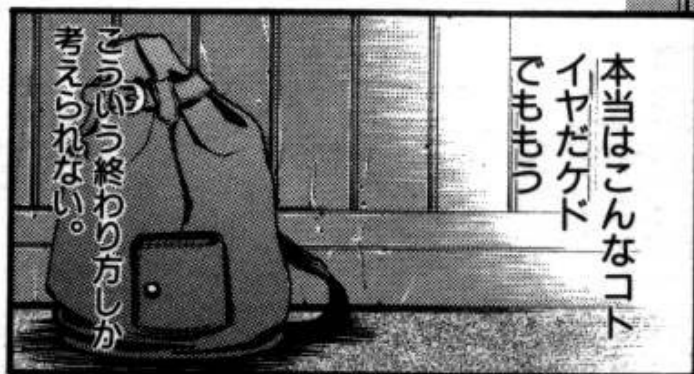
そんな淋しい事実だけだったって
いうコトを認めたくなかっただけ



そのマスミくんですら
あたしにとって
本当はマホロシ
みたいなもので
しかないってコト。



実はメグムが
マスミくんの
代わりでしか
ないってコト。



全部気付いちやったから

でも
もうだめ





H-Kyoudai
scan





こんな終わらせ方なんて

ぼくもメグムさんも
ハジメちゃんが
必要なんだ。



夢でも幻でも
嘘でもね
それでも



ハジメちゃんは
比処にいたくちや
いけない。

たとえ最初から
あるはずのない
答えを求め続ける
ような

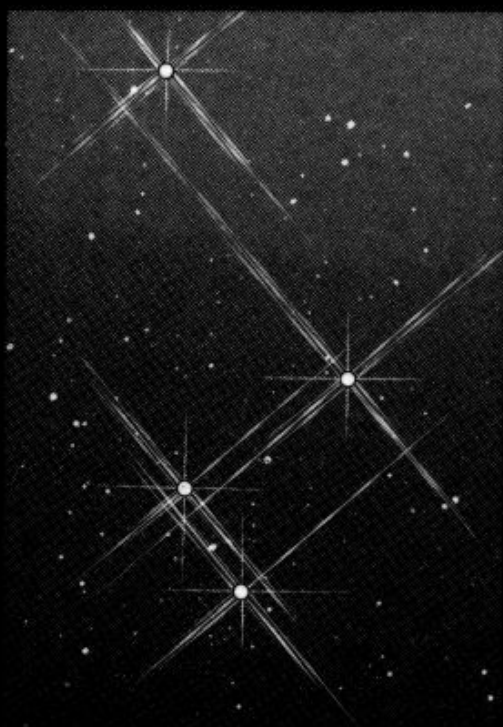
無意味なコトの
積み重ねでしか
ないとしても



本当に意味の
あるコトなんて
それ以外には
何もないから



今比処に
ハジメちゃんが
いるってコト
以外には…



何も…ね



善悪を知る禁断の実を
狂った楽園の中でずっと
味わい続けるコトを願ってたから。

祈りにも似た神聖な想いを
いつまでもかみしめてたかったから。



痛みを覚悟で恋した訳じゃなかった。

与えられるモノと等価の何かを失っても
手に入れられるなら苦痛も快感になる…

だからあたしは誰かを必要としてた。



真崇見くんを。



恵を。

自分以外にも自分を
必要としてくれる



“他人”を求めてた。



二年が流れ
なのにメグムだけが
逝ってしまった……

愛でなく
恋でなく

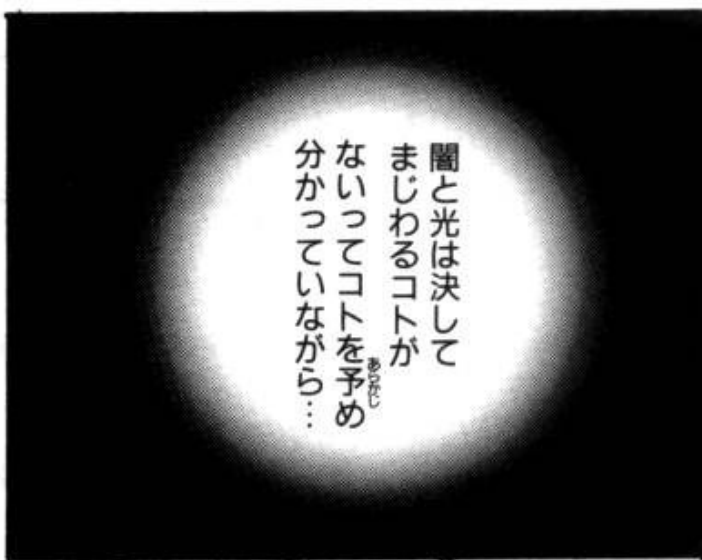
——けれどそれ以外の
何物でもない絆きずなに繋がれたまま



光が光だけで
存在しないように。



闇が闇だけでは
いられないように。



闇と光は決して
まじわるコトが
ないってコトを予め
分かっていながら……

まるで^{まどろみ}微睡に溶けるように…
やわらかな陽射しに包まれるように…



メグム…



いいの私
倅せよ
ホントにね



罰が当たった
んじゃないかな

心臓悪く
するなんて



ハジメのコト
可愛がって
あげてね

私マスミくん
好きよ

こんなに私のコト
想ってくれる人が
二人もいるんだもの

——そして あたしはマスミくんと生きるコトを選んだ……。

ハジメっ

大好きよっ





待った?

キ



ううんそんなには
あたしが早く来
すぎてたの。

ありがとう
あなた。



じゃ
行こっか

うん



きや...

メグム...



甘く 罪深く 加虐的な 犠牲

R A P E M E

E・N・D

STAFF

里見 誠 宝蔵院 貴志

SPECIAL THANKS

うめつゆきのり

大石 守

服部 千尋

北條 仁

担当山田氏とドルフィン編集部の方々

a n d

全ての読者の方へ

少しばかりでなけなしの けれどありったけの愛と感謝を込めて



琴之がきり

TSUKASA-COMICS

RAPE ME

1996年12月25日 初版発行
1997年2月5日 第3版発行

著者 琴 吹 か づ き
発行者 永 野 邦 裕
編集者 山 田 俊

発行所 株式会社 司 書 房
東京都千代田区三崎町2-11-7 トーエンビル
郵便番号 (101)
電話 03(3263)6791
印刷・製本 ㈱技報堂
写植 公 栄 社

乱丁・落丁本はお取り替え致します

H-Kyoudai
scan

暗躍人・ラブ・エモーション
IDEA・春夏秋冬
伊武秀吉・Fu-Tai-Ten
宇佐木恵・しあわせWith you
絵本ありあ・ヒステリックピンク
尾崎晶・NEO-ERO
尾崎晶・D-SHOCK
尾崎晶・DAY BY DAY
があさん・愛の妙薬恋の化学
回輪鬼畜・虹色少女学園
かたせ湘・ドキドキりかこ先生
かたせ湘・ドキドキりかこ先生 2
蟹森ぐり・アルコール注意報
KAME・YEAH!
かるま龍狼・メイド・ウーマン
かるま龍狼・メイド・ウーマン 2
きねま天戈・白百合銃士隊
きゃらめる堂・タナトス・キス
きゃらめる堂・ママレード
倶梨伽羅・How old are you?
倶梨伽羅・ナイショ♥ないしょ
琴吹かづき・ナイトビジター
琴吹かづき・RAPE ME
斉藤苑子&速水裕・
魔法のエンジェルミルキーリップ
櫻見弘樹・しっぽの仕組み
さつき優・ベイビィフェイス
篠原哲生・めがねっ娘純情
じゃみんぐ・キャッチ・ザ・ハート
鈴木がんま・プライベートレッスン
高岡基文・特選!!グルメの店
茶々木紀之・茶々木印Special blend
ちたま(某)・好きだけど好きだから
東海道みっちい・ウォーターフルーツ
豊島ゆーさく・BREEDER
猫玄・図書館の妖精
猫玄・好色少年
華沢れな・闘魂!スポーツ少女
花見沢Q太郎・月家の一族
花見沢Q太郎・ひよこ
花見沢Q太郎・スイカと海と太陽と
光野大地・

飛んではずんでポヨヨヨヨ〜ン!

ひぼぼたます・さいごんてい
緋村えいじ・SADISTIC GAME
緋村えいじ・ANDADURA
氷室芹夏・
魔法のセーラー服美少女イクコちゃん
豹高之・バイトしちゃうぞ
深田拓士・呪縛
前田貴也・ME TOO!
魔訶不思議・あくまくまじっく
魔訶不思議・アンチテーゼ
間垣亮太・RABBIT STATE
M・Gジョー・マシンガンLADY
まついもとき・高校教師物語
まついもとき・高校教師物語 2
MARO・シャレーダー
Mitsuo・DECEIVE
むつきつとむ・リングアドベンチャー
むつきつとむ・
I WANT...わたしの欲しいものー
山田ひより・小春日和
世棄犬・DOG MAN
RaTe・Any Questions?
RaTe・Best Relation
LAZY CLUB・NAKED BLUES



深田拓士「呪縛」より

ひみつのあとがき

雑誌掲載時に編集長閣下から1Pふんだくって「あとがき」やったものの、実はこんなトコに1P見つけちゃったのでまたあとがき。

で、だ。もう何てゆーかちょっとアレだ。前の単行本の時エラソーなコト言ってた割にあんま進歩ない。まあ二年やそこいらで進歩だ変化だ協調性だとなんて、土台無理な話で、実は小学生時分からその言葉には縁が無いのだから仕方がない。

さて、本題だ。ドルフィン誌上でこの作品は「人を好きになるというコト」ってのをテーマにしたと云ったが、その答えがタイトルのレイブミーという言葉にある。人道主義やらフェミの人間からすりゃ言語道断なんだろうが、仕方がない。そう思っちゃってるんだから、このボクは。まあ聞いてくれ。

人を好きになるコトは多分そう悪いコトじゃないだろう。けれどそれはひどく一方的で恐ろしいまでに暴力的感情である様に思う。それは憎しみより愛が深いとか愛故に云々とかゆーたワケたコトでなく、そのベクトルは常に一つでしかないという意味においてだ。まんま暴力そのものと違わない一方的なコミュニケーションの手段に過ぎないというコトだ。人はエスパーやらニュータイプ(笑)やらではないので、絶対的且つ永続的な共感を得られないという事実に基づくなら、こう考えざるをえない。そうすると、社会で所謂恋愛と呼ばれている関係の大半はあくまで擬似的なソレ(あるいは自己欺瞞と云うべきか)であるとしがいえないモノだし、恋愛そのものの自体が瞬間的なものでしか成立し得ない奇蹟的なシロモノであると云うより他はなくなる。

無人島で生まれ育ったヒトが自分を「人間」と知らないのは、そこに他者がいないからで、ヒトは他者を知り初めて「人間」たりえる。その最も端的な他者というのが恋愛におけるソレだ。そこに他者という自己を照らす光があり、それを求め近づくという行為が「好き」という感情だからだ。しかしながら、他者という光に照らし出された自分という影は、決してその光と交わるコトはなく、それが相方共に起こっているコトだとしても、あくまでそれは一方的な照らし合いでしかないモノで、互いを一つのものとしてあろうと思おうとも、ヒトの意識が合一するコトがない以上、また照らし合う光によって生まれる影は必ず二つなくてはならない(一つのものになっては他と自は消滅してしまう)というアンビバレンツが存在する以上、これが一方的なものではないと誰が云えようか。

そう、愛し合う二人は本質的には片恋でしかないのだ。(一般的な共通の認識という基盤の上での共感、あくまで洞察の域を出ないモノで、分かり合えたというレベルには程遠いのではないか?)その上、照らす光の強弱がどうであれ、映し出された影=自己は決して愉快なものとは限らない……

ところが基本的にはそうとしかありようのないハズのこの関係も、言語・習慣・思想・種族・生物学的間違いのワクを超えて成立してしまう場合がある。これこそが真の恋愛というものではないのか。(我思う故に我在りの全てが仮想現実として崩壊する以上、これすらもそうならない訳ではないが)

と、まあそこに行き着くまでは「好き」という一方的な思い込みを相手にぶつけるしかなく、それを相手にぶつけてもらうしかないというコトで、その意味でのレイブミーって訳。

ま、何にしてもレアなボク自身が出過ぎでプロ意識が欠如しているといういい見本にはなっている。さらにコレを芸風だと勘違いしちゃってる上に、マーケットの傾向ってのをハナツから無視しちまってるモンだから始末に負えない。バカ丸出しという奴だ。よく自分のマンガを映画に喩える人がいるが、ボクはそれを文学でやりたかったといったトコロで、結果はご覧の通り。ポンチ絵が何とか描ける程度のハンパ作家にゃ……ねってカンジ。コマーシャル的内容の高いモノやりたくないだなんてオマエは何様のつもりだったのな。百億万年早エっつーより、エロマンガ家のくせにアーティスト気取ってんじゃねーってトコだね、ヤレヤレだ。

まあ、でも売れそーなモン売れそーなモンって、売れセンアニパロ同人誌作り飛ばしてエツに入っちゃってるよーなノータリソ作家になっちゃうってのも(たとえ営業だとしても)どーだろうなあと思つてさ。

そしたら、今度は手から光線出しながら戦いをする巨乳のプリティガールガズバーンとイージーなフアックをキメてくれるマンガでお会いになれますか。……………なんちて。

TC
TSUKASA
C-O-M-I-C-S

レイプ

ミー

琴吹かづき

成年
コミック
司書房



9784812800089



1919979009008

ISBN4-8128-0008-0

C9979 P900E

雑誌 53212-92

定価900円(本体874円)



KAZUKI KOTOBUKI

RAPE ME

TSUKASA COMICS
RAPE ME

1996年12月25日 第1刷発行
1997年2月5日 第3刷発行

著者——琴吹かづき

発行人——永野邦裕

編集人——山田俊

発行所——株式会社司書房

〒101 東京都千代田区三崎町2-11-7

トーエンビル別館 ☎03(3263)6791

印刷——技報堂

◇たとえば、何年か経ってある程度客観的に自分を見た結果、高嶺の花だと諦めたヒトと結婚出来て、友人達に羨ましがられたりしながら甘い新婚生活を送り、子供なんか出来ちゃった日にやまるで絵に描いたような幸福な家庭…ってそんな人生を歩む。そんな時、ある晩ふと昔の記憶がぼんやりと頭をかすめ、何とはなしに不安になる。そんな「ある記憶」になれるのならばくは本望です…。

H-Kyoudai
scan